

S/F REAL4

Q&A

【基本】

 あいホールディングスグループ 

株式会社 **ドットウェル** ビー・エム・エス

DATA LOGIC



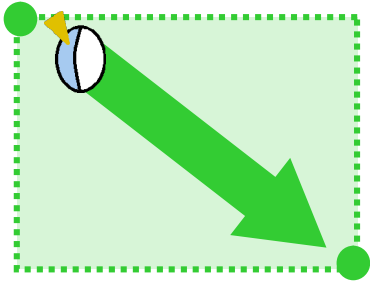
画面の拡大/縮小/移動の操作方法を知りたい！

マウス範囲選択、ホイール操作で拡大/縮小/移動が可能です。

【マウス操作】

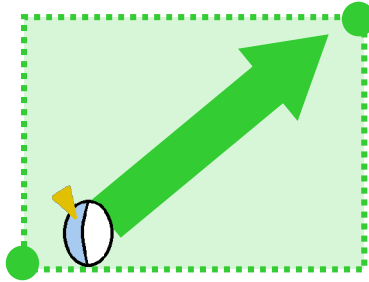
拡大：範囲指定部分を拡大表示

左上から右下へマウスドラッグ



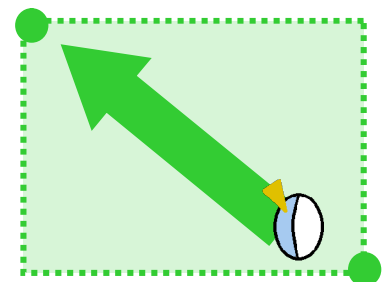
全表示：画面全体を表示

左下から右上へマウスドラッグ



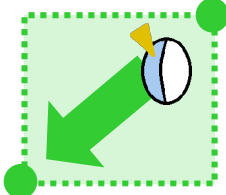
前表示：一つ前の表示画面に戻る

右下から左上へマウスドラッグ



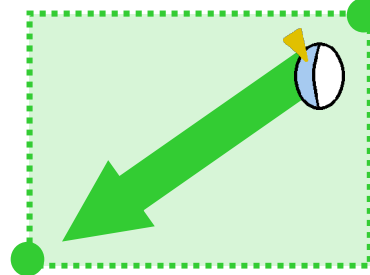
1/2 縮小：表示している画面の 1/2 縮小表示

右上から左下へマウスドラッグ（範囲狭）



1/8 縮小：表示している画面の 1/8 縮小表示

右上から左下へマウスドラッグ（範囲広）



【ホイール操作】

ホイールを前に転がす：拡大

ホイールを後ろに転がす：縮小

ホイールをクリック：全画面表示

ホイールをクリックした状態でマウスを移動：画面移動

【キーボード操作】

Ctrl + : 画面移動



【ファイル】 - 【REAL4 のオプション】 - 【マウス操作設定】 - 【マウスドラッグ】で

マウスの割り当てを変更することが出来ます。ホイールを転がした時の拡大・縮小の反転も変更が可能です。

マウスドラッグ			
拡大・全表示	なし	+	左ボタン
縮小・前表示	なし	+	右ボタン
画面移動	なし	+	中央ボタン





マウスホイール			
<input type="checkbox"/> マウスホイールの反転	フリークリック	<input checked="" type="checkbox"/> フリークリックで決定	

縮小表示	なし	+	なし
全画面表示	なし	+	中央ボタン
前表示	なし	+	なし



ガイド図を閉じてしまった場合も同じです。



-  入力シート
-  ガイド図
-  干渉チェック
-  次回起動時に表示しない（3Dビューアー）

その矢印の上に入カシート・ガイド図を割り当てると、重ねた矢印の方向にシートが配置されます。



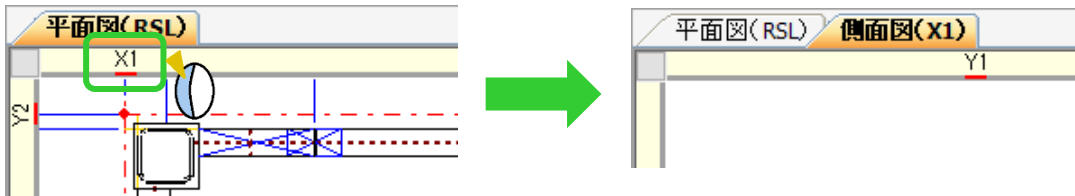
【ファイル】 - 【ウィンドウ情報を出荷時状態に戻す】でも
入力シートやガイド図の再表示、画面位置を戻すことができます。



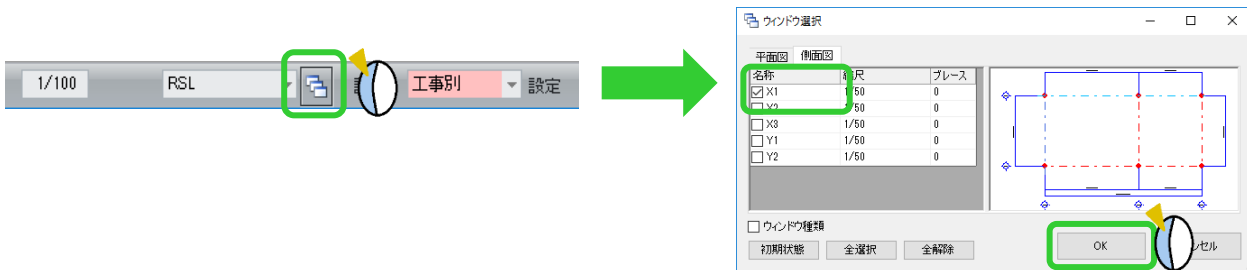
軸組図を開きたい！

2通りの方法で軸組図を表示させることができます。

<方法①>平面図の上下左右にある通り名称ボタンを押すと、各軸組図を表示します。



<方法②>配置画面下側 ウィンドウ選択ボタンをクリックして側面図タブを開き、表示させたい通り名称に☑を付けてOKすると、軸組図を表示します。

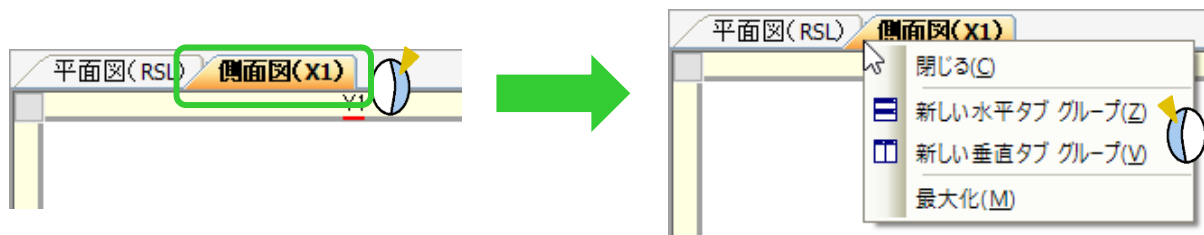


複数画面を上下または左右に並べて表示させるには？

タブを右クリックすると表示方法が選択できます。

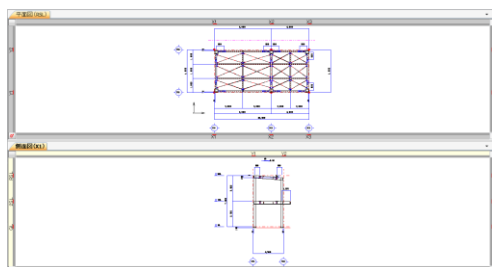
並べて表示したい図面タブの上で右クリックし、

【新しい水平タブ グループ】または【新しい垂直タブ グループ】をクリックします。

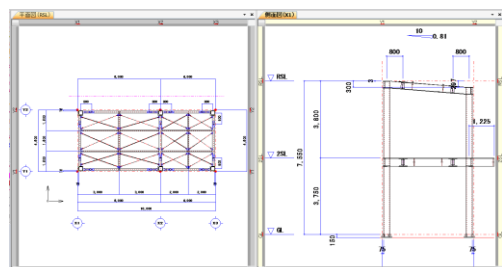


【新しい水平タブ グループ】では水平(上下)に、【新しい垂直タブ グループ】では垂直(左右)に並べて表示します。

水平



垂直

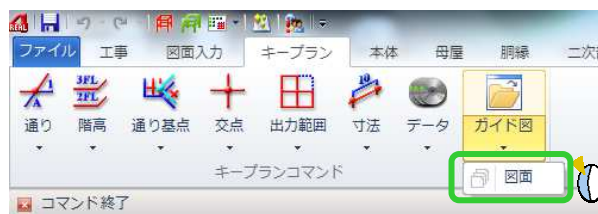




図面を下絵として取り込みたい！

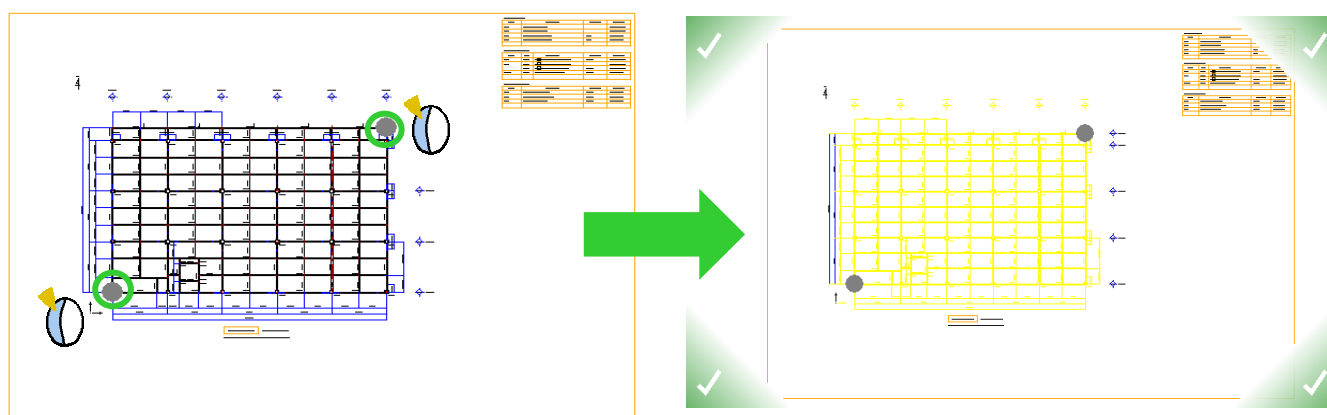
ガイド図で取り込みができます。

【キープラン】 - 【ガイド図】 - 【図面】をクリックします。

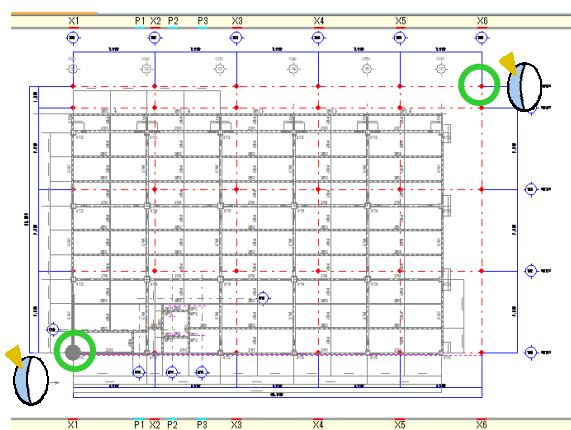


取り込みたい図面を選択して開きます。(DXF や JWW にも対応しています。)

基点となる交点を二か所選択し、読み込みたい図面を右ドラックで範囲選択し、**OK**します。



キープラン図上に取り込んだ図面を配置します。取込時に選択した基点と同じ交点をクリックします。



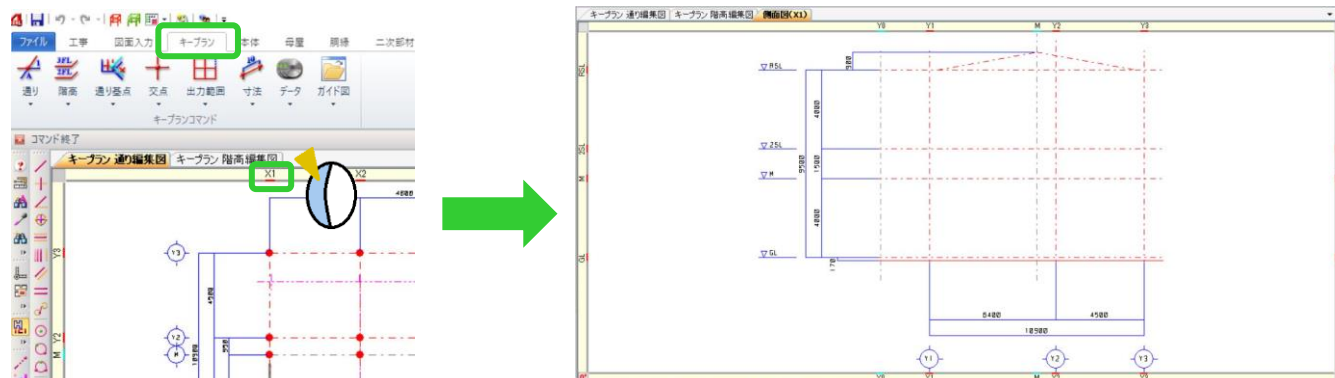
取り込まれたガイド図は、補助線レイヤーとして扱われます。

他階でも図面を取り込み、重なって見えづらいような場合は、補助線レイヤー設定で表示の有無を切り替えてご利用ください。



軸組図を下絵として取り込みたい！ ガイド図で取り込みができます。

【キープラン】をクリックします。下絵を取り込む通りの軸組図を開きます。

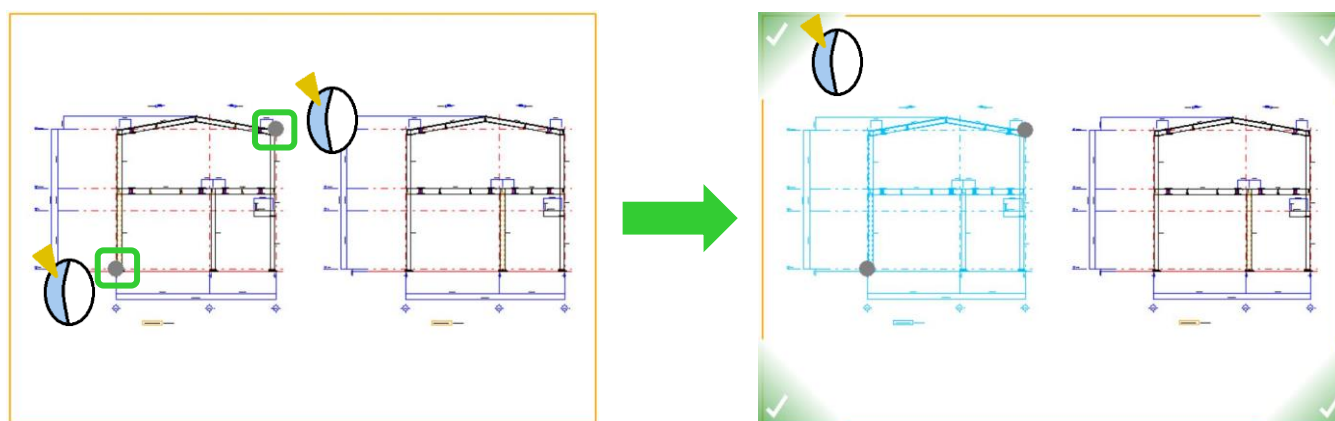


【ガイド図】 - 【図面】をクリックします。

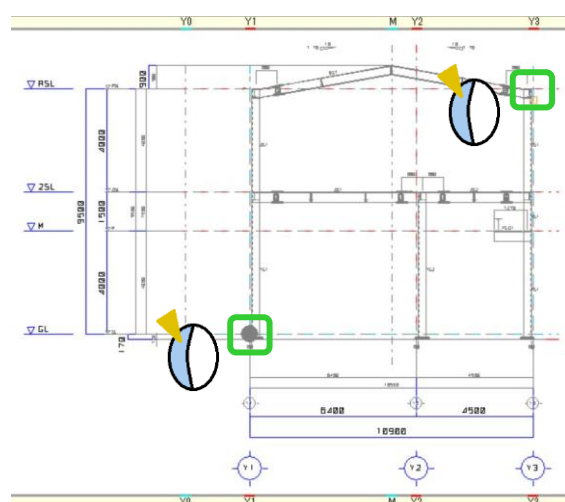
ガイド図として取り込む図面を選択して開きます。(DXF や JWW にも対応しています)

取り込む際の基点として、通りと階高の交点を 2 ヲ所クリックします。

右ドラッグで、取り込みたい図形の範囲を選択し、四隅の☑をクリックします。



配置画面に戻り、取り込んだ図面を配置します。取込時に選択した基点と基点をクリックして配置します。



取り込んだ軸組図は、通りごとの補助線として扱われます。

例) X1 通りと X2 通り

同じ X 方向 (Y 方向) は補助線が重なって表示されるので

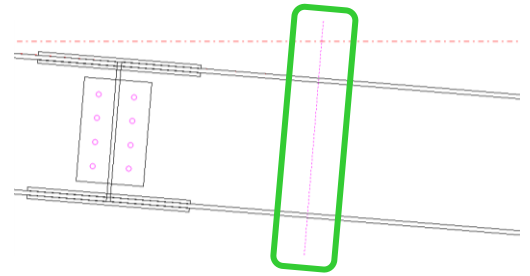
【補助レイヤー設定】で表示の切り替えを行って下さい。
線色や線幅などの変更も可能です。

補助レイヤー設定						
No.	名称	色	表示			
			表示切替	キープラン	本体	母体
1	X1(ID=1)	Gray	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2	X2(ID=2)	Gray	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

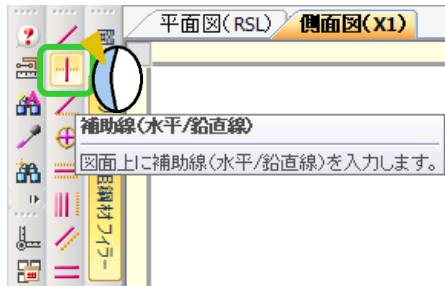


斜めの線に対して直角な補助線を作図したい！

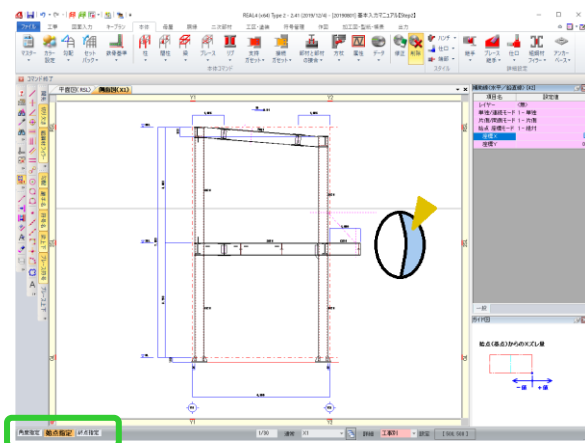
水平/鉛直線で作図出来ます。



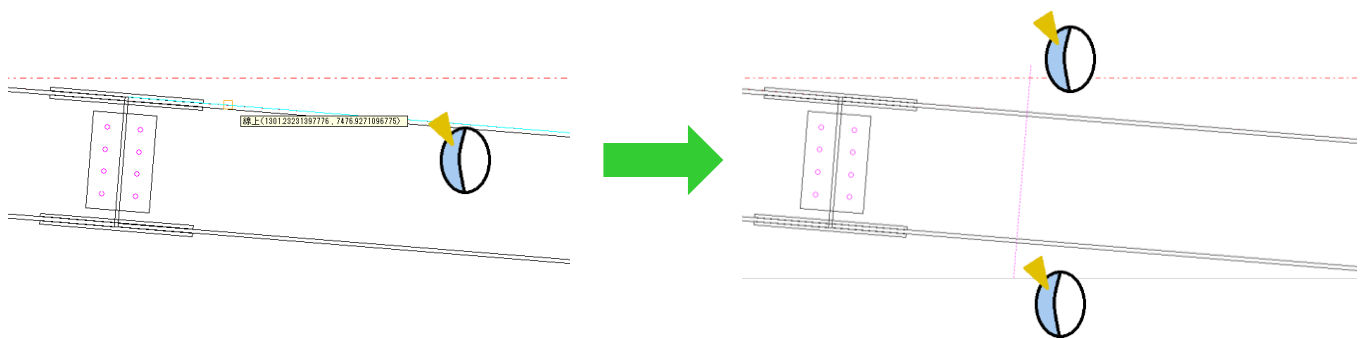
【補助線(水平/鉛直線)】をクリックします。



画面左下のコマンド手順が【始点指定】の状態で右クリックすると【角度指定】になります。



角度の基準となる斜めの線をクリックし、基準に対して直角の補助線の長さ（始点→終点）を指定します。



【補助線(角度線)】でも同様に、指定した基準線に対して任意の角度線を作図する事が可能です。



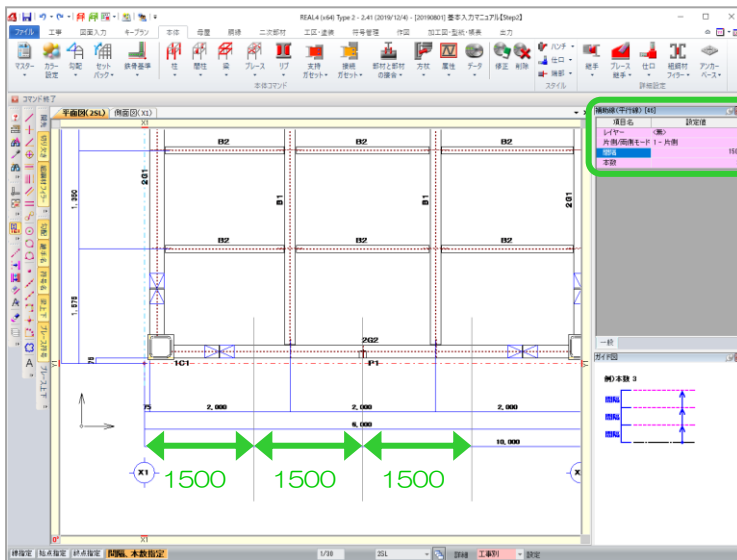
補助線の『平行線』と『間隔線』の違いは？

同じ間隔で複数本作図するか、違う間隔で作図するかの違いです。



【補助線(平行線)】：基準線に対して、間隔と本数を指定して補助線を作図します。

例) 間隔：1500、本数：3



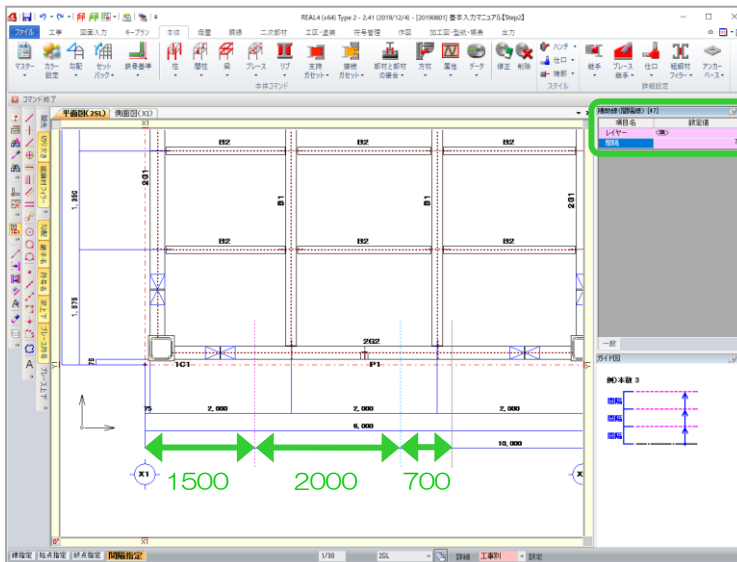
項目名	設定値
レイヤー	<無>
片側/両側モード	1 - 片側
間隔	1500
本数	3



『平行線』・『間隔線』どちらも
入力した間隔はプラスまたはマイナスで
はなく、マウス位置が選択した基準線よ
り左右(上下)のどちらにあるかによっ
て作図する方向が決まります。



【補助線(間隔線)】：基準線に対して、1本ずつ間隔を指定し、複数本の補助線を作図します。



例) 1本目 間隔：1500

項目名	設定値
レイヤー	<無>
間隔	1500

例) 2本目 間隔：2000

項目名	設定値
レイヤー	<無>
間隔	2000

例) 3本目 間隔：700

項目名	設定値
レイヤー	<無>
間隔	700

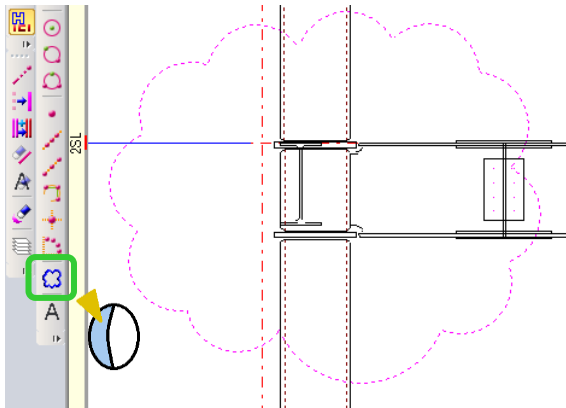


『間隔線』では、間隔は数値を入力せず、作図したい位置をマウスでクリックして作図するも可能です。
数値を指定して作図したい場合は、画面上をマウスでクリックするとクリックした位置に補助線を作図しますので、必ず間隔を入力後、キーボードの **ENTER** キーで確定して下さい。

配置入力画面で雲マークを入りたい！ 雲形マークで入力できます。



【補助線（雲形マーク）】をクリックし、作図する雲マークの情報を入力します。



補助線(雲形マーク) [58]	
項目名	設定値
レイヤー	<無>
円弧方向	1 - 円弧左
円弧長	8
半径比	0.55



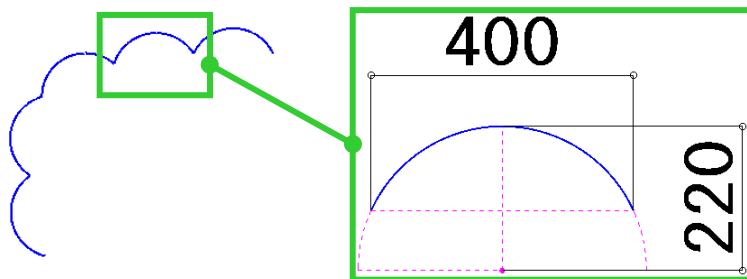
円弧方向：開始点からの円弧方向を設定

円弧左は左回り（反時計回り）、円弧右は右回り（時計回り）に円弧を作図

円弧長：雲マークの円弧の弦の最小値を入力

半径比：円弧に対する半径の比率を入力

例）図面縮尺 1/50、円弧長 8、半径比 0.55



弦の最小値＝円弧長×縮尺

＝8×50

→最小値は 400

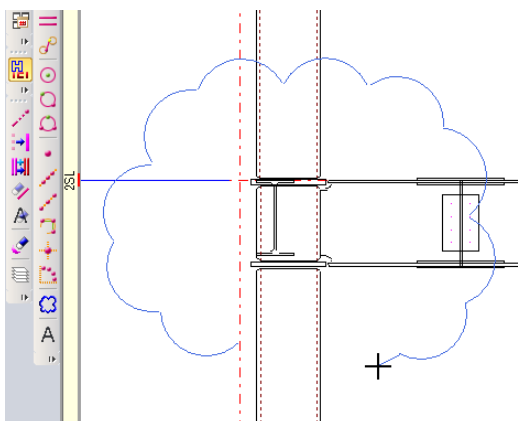
半径＝（円弧長×縮尺）×半径比

＝（8×50）×0.55

→半径は 220

雲マークの開始点をクリックし、雲マークを描きたい方向にマウスを動かします。

マウスが開始点に達すると雲マークを作成します。



配置入力での補助線入力は作図図面には反映しません。
図面に反映させたい場合は図面編集を行ってください。



配置入力画面に任意の文字を入力したい！

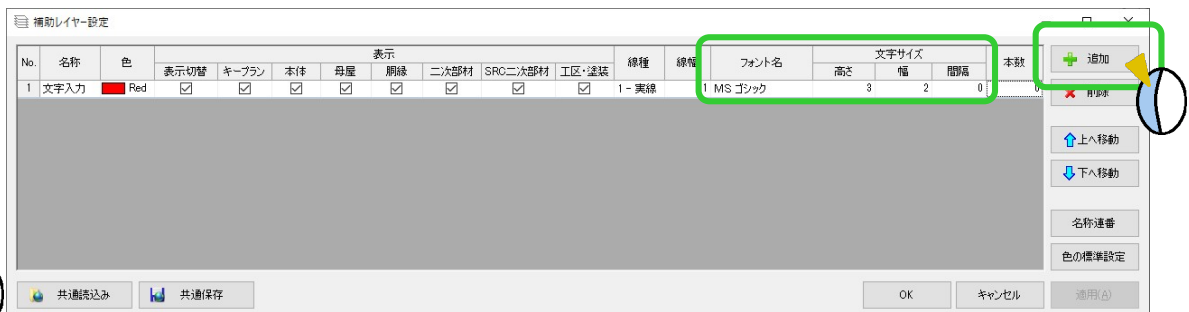
補助文字機能で入力できます。

【補助線レイヤー設定】を開きます。



【追加】をクリックし、文字入力用の補助線レイヤーを作成します。

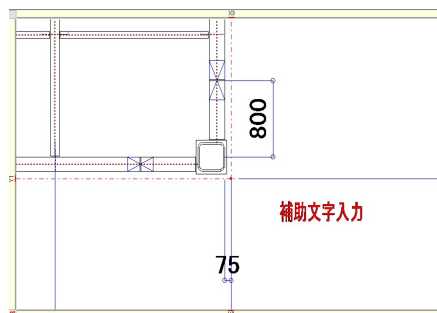
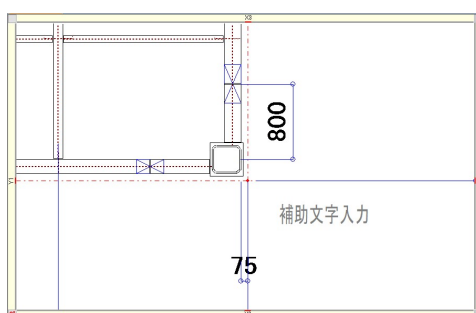
【フォント名】、【文字サイズ】の項目で入力する文字のフォントや大きさを変更できます。



【補助文字】をクリックし、入力シートの【レイヤー】に、先ほど作成した補助線レイヤー名称を選択します。【文字列】に任意の文字を入力し、Enter キーで内容を確定します。

補助文字 [59]	
項目名	設定値
レイヤー	文字入力
角度 角度モード	1 - 10進
角度	0
配置基準	7 - 左下
オフセットX	0
オフセットY	0
文字列	補助文字入力

マウスに文字が付いてきますので、任意の位置でクリックすると文字が配置決定されます。



補助線レイヤー設定で、を入れると補助線や補助文字を表示し、☒が入っていないと補助線や補助文字を表示しません。

【表示切替】で項目全体の☒が切り替わり、【キープラン】や【本体】等で☒を替えると、各タブごとの表示・非表示の切り替えができます。

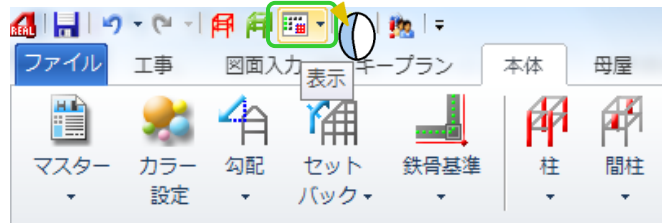
表示							
表示切替	キープラン	本体	母屋	胴縁	二次部材	SRC二次部材	工区・塗装
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

入力した補助線が画面に表示されない！

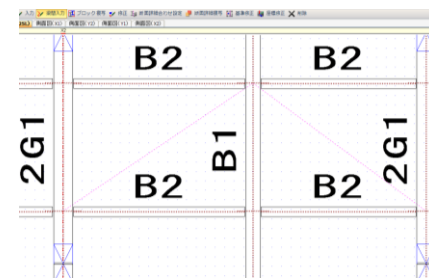
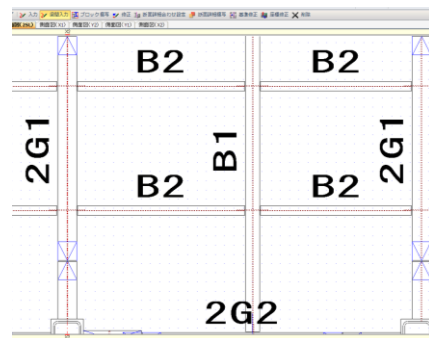
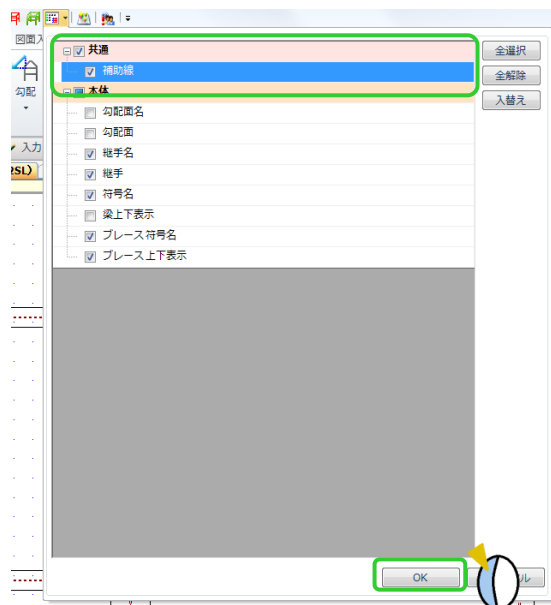


表示設定で変更出来ます。

ツールバーにある【表示】タブをクリックします。



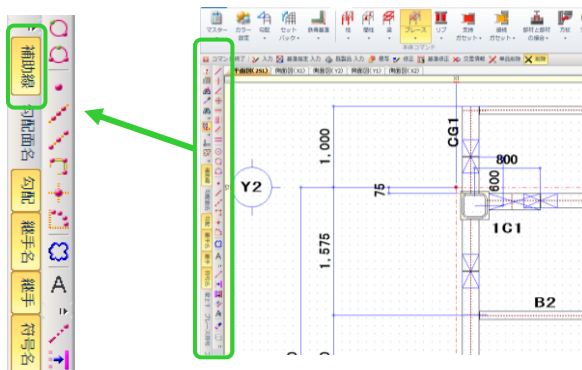
補助線の項目にチェックをつけて **OK** をクリックします。



表示設定では、補助線以外にも配置画面の作図データの表示・非表示を切り替えることができます。各タブで設定できる項目が異なります。

画面左側のツールバーでも表示有無を切り替えることが出来ます

補助線タブや勾配タブなどをクリックすると表示有無を切り替えることが出来ます。





補助線を画面上に表示するかしないかの設定は？

① 作図した画面のみで表示させるか、すべて表示させるかの切り替えが可能です

画面左上の【ファイル】-【REAL4のオプション】をクリックします。

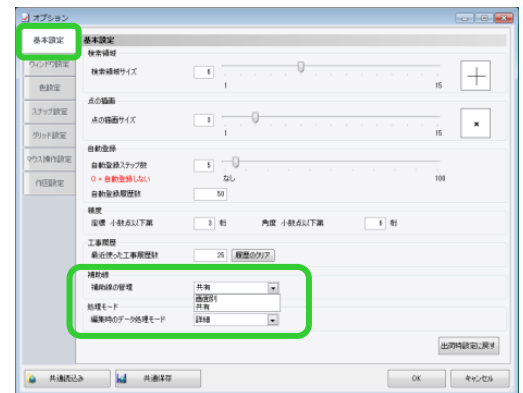
【基本設定】-【補助線の管理】より切り替えが可能です

【画面別】・・・ 補助線を作図した画面(階高や通りなど)のみ表示

【共有】・・・ すべての画面に補助線を表示

(パターン入力以外で作成された通り軸に関しては

「共有」設定であっても各通りでの表示になります)



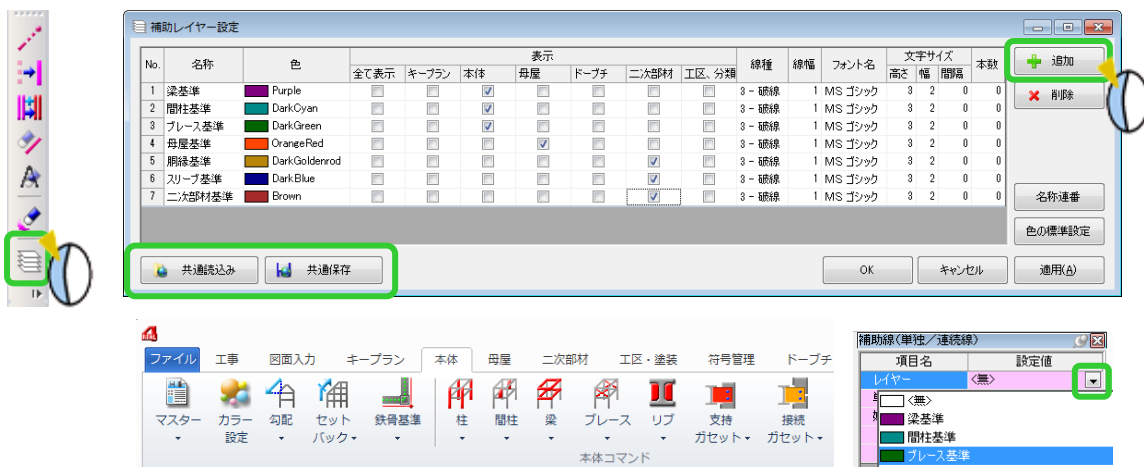
② 補助レイヤ設定を使用して、各部材の配置時に表示の切り替えが可能です

画面左側のツールバー内より【補助線レイヤ設定】をクリックします。

追加ボタンよりレイヤを作成することで、補助線の色や線種を分けて作図したり

各部材の配置画面に応じて、補助線表示のON/OFFを自動で切り替えることが可能です

一時的に表示したくないときは、☑を外すことで非表示にできます



補助線を作図する際は、配置している本体や母屋などの表示に☑が入っているレイヤのみ

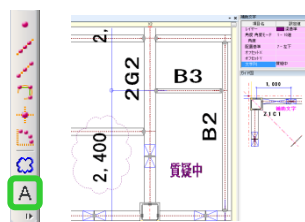
選択可能になり、本体から母屋などにタブを切り替えた際に、表示／非表示が切り替わります。



補助レイヤを設定後、**共通保存**しておけば、他の工事でも**共通読み込み**から読み込むことができます。



配置画面内に文字（補助文字）を入力する際は、レイヤ設定の色やフォント、文字サイズを参照しているため、1個以上のレイヤが必要になります。





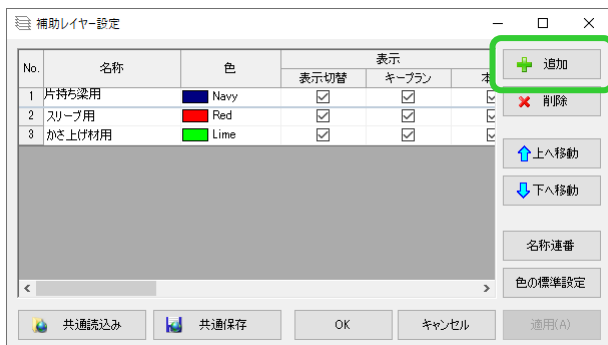
基準補助線を補助レイヤー設定で指定した線色にしたい！

REAL4 オプションから設定できます。

補助線の色分けはツールバーの 【補助レイヤー設定】で行います。

どこで使用する補助線なのか分かるよう名称を設定すると管理・確認がしやすくなります。

追加をクリックし、【名称】・【色】を設定します。



追加した補助レイヤーは補助線入力時または補助修正で選択できます。

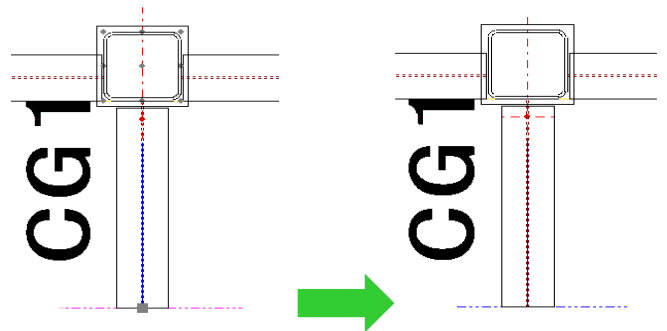
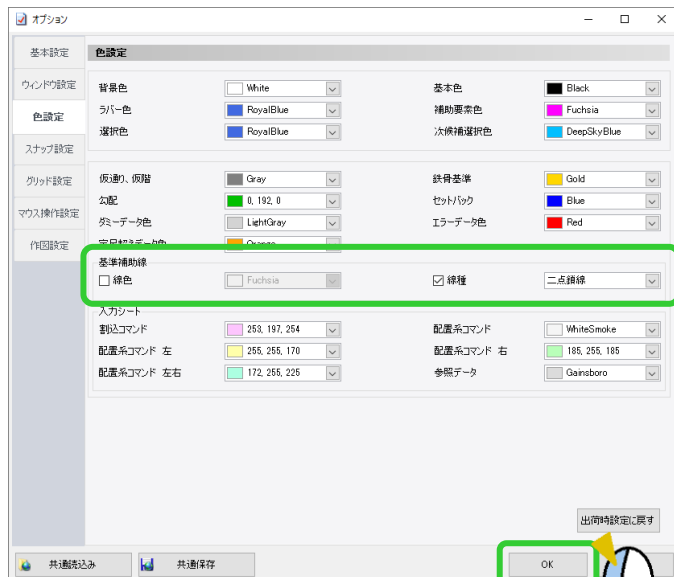


部材の配置基準や接続先に使用した補助線は『基準補助線』として、

【ファイル】 - 【REAL4 のオプション】 - 【色設定】の【基準補助線】を参照し、

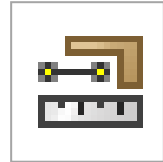
線色 Magenta・線種 二点鎖線の固定になります。(出荷時設定)

補助レイヤー設定で指定した線色のまま表示する場合は、線色のチェックを外して **OK** をクリックします。



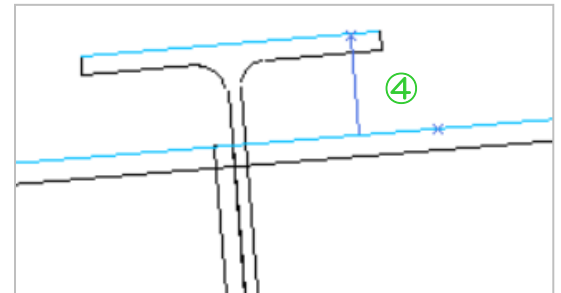
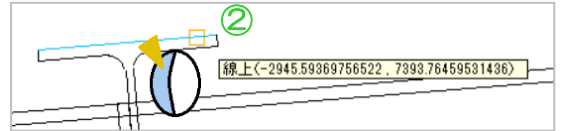
計測コマンドの使い方を知りたい！

クリックする位置により計測方法を変更できます



例)【線 - 線 間距離】を計測する場合

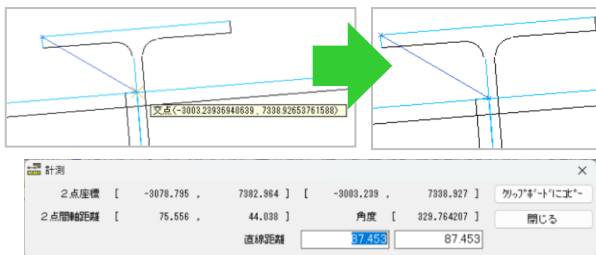
- ①【計測コマンド】を起動します。
- ②計測したい線分の上にマウスを合わせて、**□ (線上)**と表示された状態でクリックします。
- ③もう片方の線分も同様にクリックします。
- ④線間距離として計測できます。



計測	2点座標	[-2945.591, 7393.895]	[-2900.048, 7347.289]	クワッドにマ...
	2点間軸距離	[40.934, 46.692]	直線距離	[64.046]
	線角度	[184.635463]	点線間距離	[50, 50]

例)【点 - 点 間距離】を計測する場合

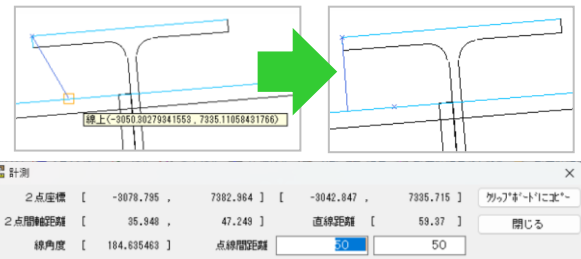
交点にマウスを合わせて、**× (交点)**と表示された状態で2点をクリックすると、点間距離が計測できます。



計測	2点座標	[-3078.795, 7382.964]	[-3003.239, 7338.927]	クワッドにマ...
	2点間軸距離	[75.556, 44.038]	角度	[928.764207]
	直線距離	[97.656]		[87.453]

例)【点 - 線 間距離】を計測する場合

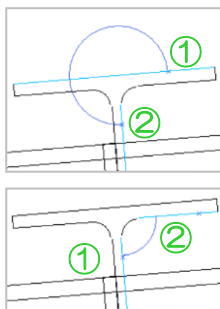
× (交点)と**□ (線上)**の状態をクリックすると、点線間距離が計測できます。



計測	2点座標	[-3078.795, 7382.964]	[-3042.847, 7335.715]	クワッドにマ...
	2点間軸距離	[35.948, 47.249]	直線距離	[59.37]
	線角度	[184.635463]	点線間距離	[50, 50]

例)【角度】を計測する場合

角度が異なる線分を**□ (線上)**にてクリックすると、相対角が計測できます。
またクリックする順番で外角/内角の切り替えも可能です。



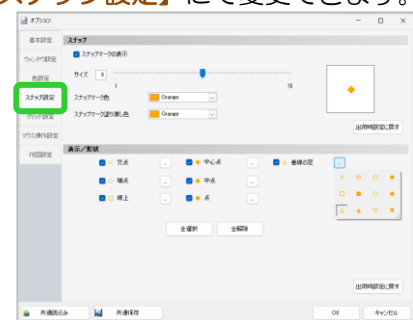
計測	開始線角度	[4.635463]	終了線角度	[274.635463]	相対角	[270]
----	-------	------------	-------	--------------	-----	-------



計測	開始線角度	[-85.364537]	終了線角度	[4.635463]	相対角	[90]
----	-------	--------------	-------	------------	-----	------



スナップマークの表示サイズや形状は、**【ファイル】 - 【REAL4 のオプション】 - 【スナップ設定】**にて変更できます。



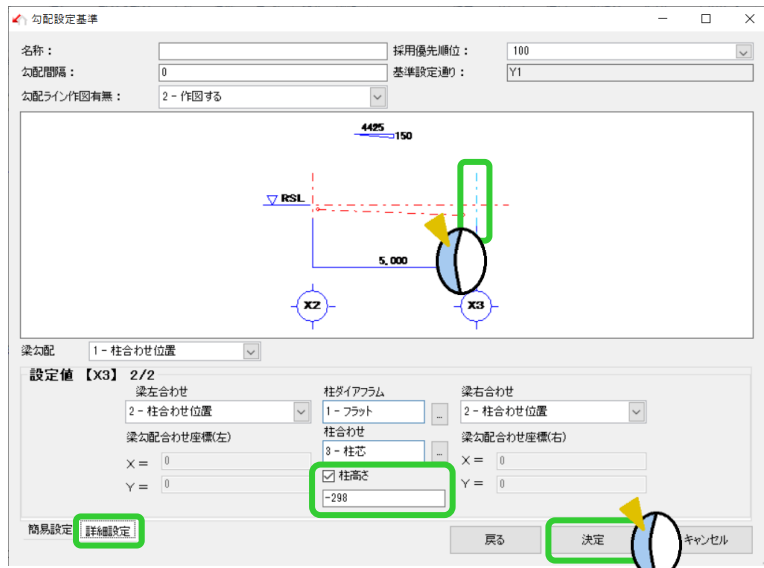


勾配設定の詳細設定とは？

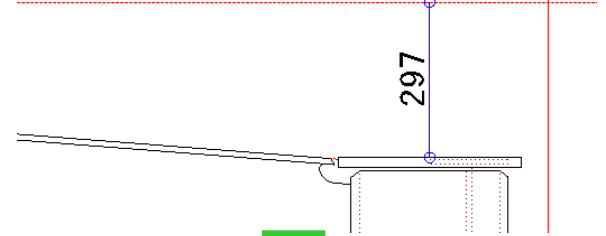
柱頂部の形状や高さ、梁の合わせ位置などを通り別に設定できます

例) 勾配で -300 となっている X3 通りの柱高さを勾配とは別に -298 に設定したい。

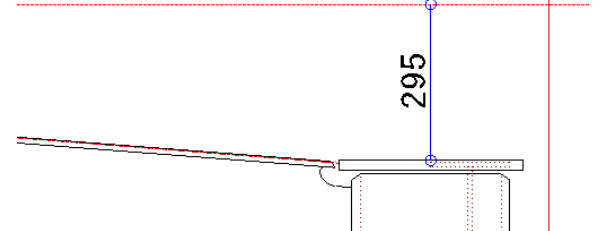
【詳細設定】で X3 通りをクリックし、柱高さに ☒ をいれ、「-298」と入力し【決定】をクリックします。



《詳細設定前》



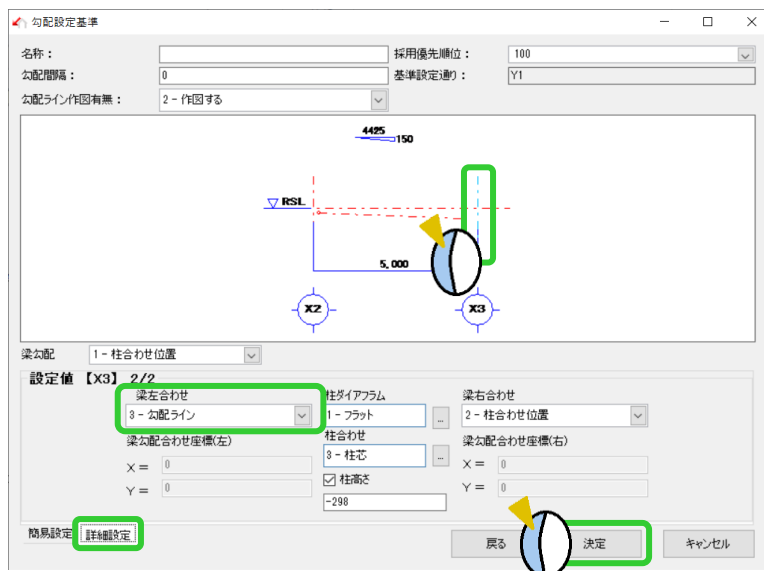
《詳細設定後》



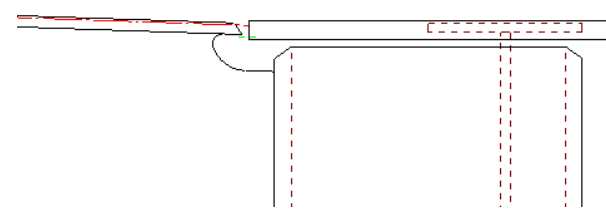
※ダイアフラム高さで寸法表示しています

例) X3 通りの梁の合わせ位置を勾配ラインに合わせたい。

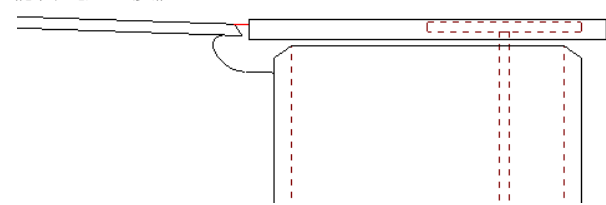
【詳細設定】で X3 通りをクリックし、梁左合わせを「3 - 勾配ライン」に設定し【決定】をクリックします。



《詳細設定前》



《詳細設定後》



梁左合わせ・梁右合わせについて

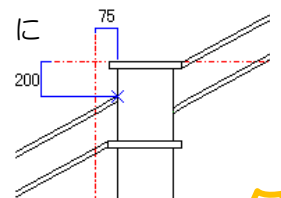
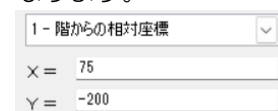
選択した通りの柱の左右それぞれにつく梁を合わせるラインを選択します。

- 1 - 階からの相対座標：座標入力します。
- 2 - 柱合わせ位置：通しダイア縁に合わせます。
- 3 - 勾配ライン：勾配ラインに合わせます。
- 4 - 柱面合わせ：柱部材面に合わせます。



梁勾配合わせ座標(左)・(右)について

梁左合わせの設定が「1 - 階からの相対座標」の場合に入力します。階高と通りの交点が座標 (X, Y) = (0, 0) になります。



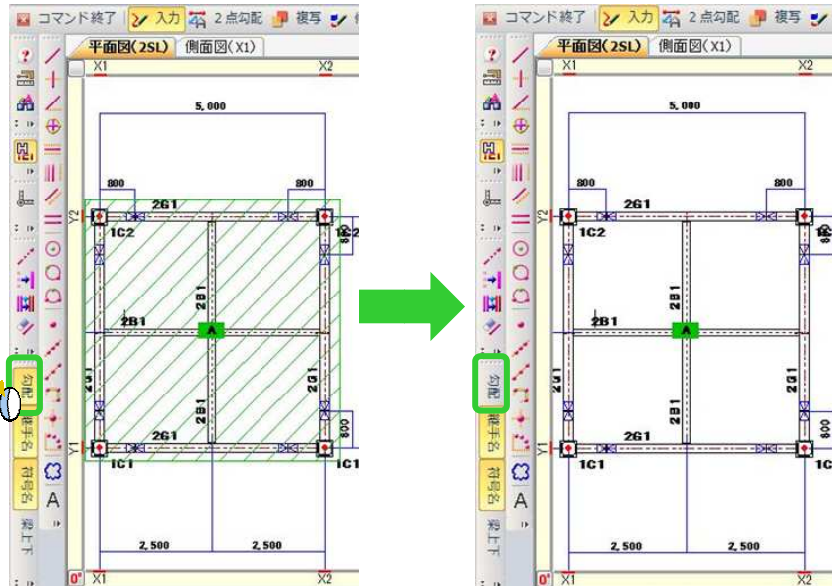


勾配範囲等を非表示にしたい！

左側のメニューバー、もしくは【表示】の設定で可能です。

例) 勾配範囲を非表示にする場合

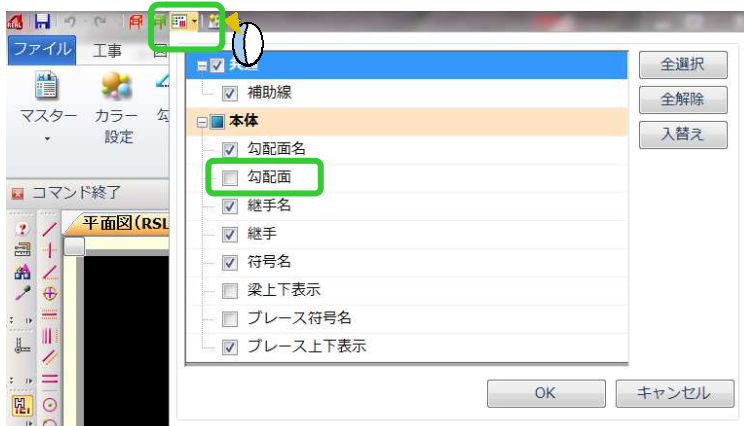
<方法①> 画面左側のメニューバーの【勾配】をクリックし、選択された状態(オレンジ)を解除します。



画面左側のメニューバーから表示を切り替えたい項目が隠れている場合、下の矢印を押すと表示されます。



<方法②> 画面上側のメニューバーの【表示】(3D ソリッドビューワー右側) をクリックし、
【勾配面】のチェックを解除します。



他にも【継手名】や【符号名】など、ON/OFF 切り替えるまたは
☑の有無によって設定することができます。
方法②では、母屋・胴縁など各タブで
設定できる項目が変わります。



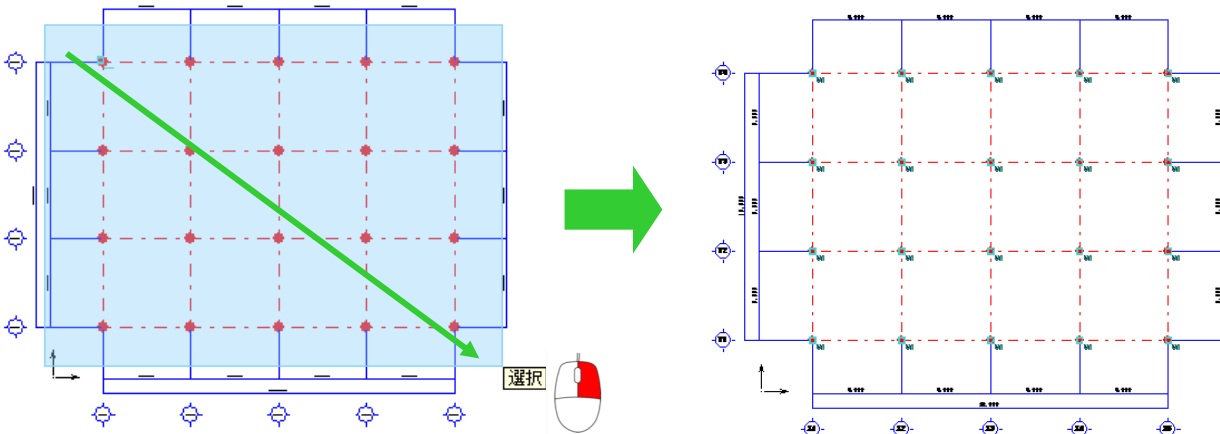
柱・梁を一括で入力・修正したい！

マウス右ドラッグで簡単に入力や修正、削除が行えます。




柱の場合

【柱】 - 【入力】をクリックします。マウス右ドラッグで柱を配置したいキープラン交点を範囲指定します。
囲んだキープラン交点に柱を表示するので、四隅の  ボタンをクリックして配置決定します。

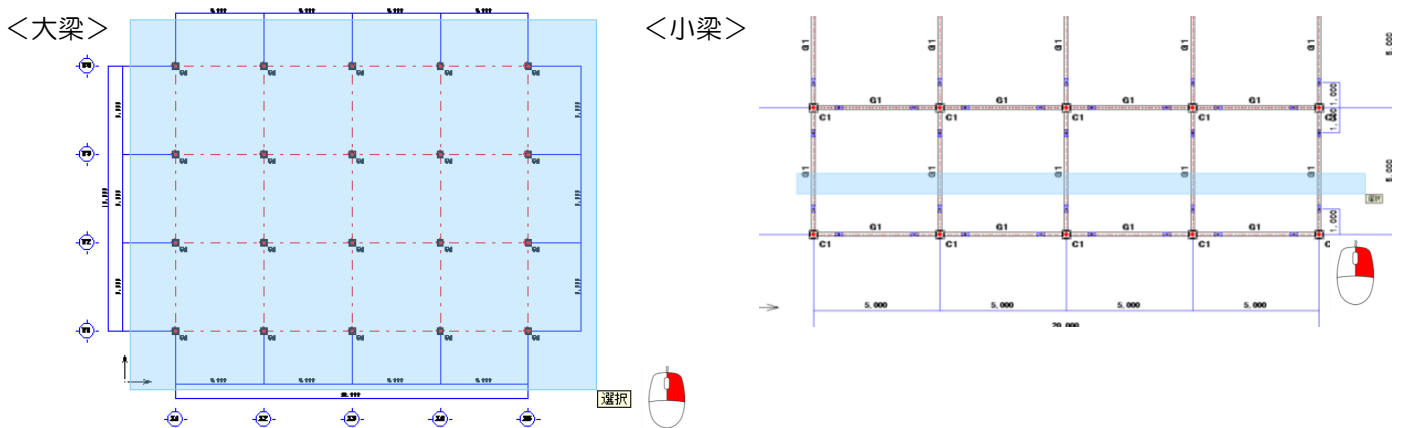


大梁の場合

【梁】 - 【入力】をクリックします。マウス右ドラッグで大梁が取り付く柱を範囲指定します。
囲んだ柱～柱間に大梁を表示するので、四隅の  ボタンをクリックして配置決定します。

小梁の場合

【梁】 - 【梁間入力】をクリックします。マウス右ドラッグで小梁が取り付く大梁を範囲指定します。
囲んだ大梁が選択色になるので、配置基準・間隔等を設定して **OK** ボタンをクリックして配置決定します。



修正または削除も同様の手順で行うことで、一括で修正・削除ができます。

範囲選択は、マウスを画面右方向へドラッグすると選択・左方向へドラッグすると解除になります。



修正・削除時に、
入力シートの項目名左側のチェックボックスに ☒ を入れ、
部材名などの条件を設定し、右ドラッグで範囲選択をすることにより
設定した条件の部材のみ選択することができます。

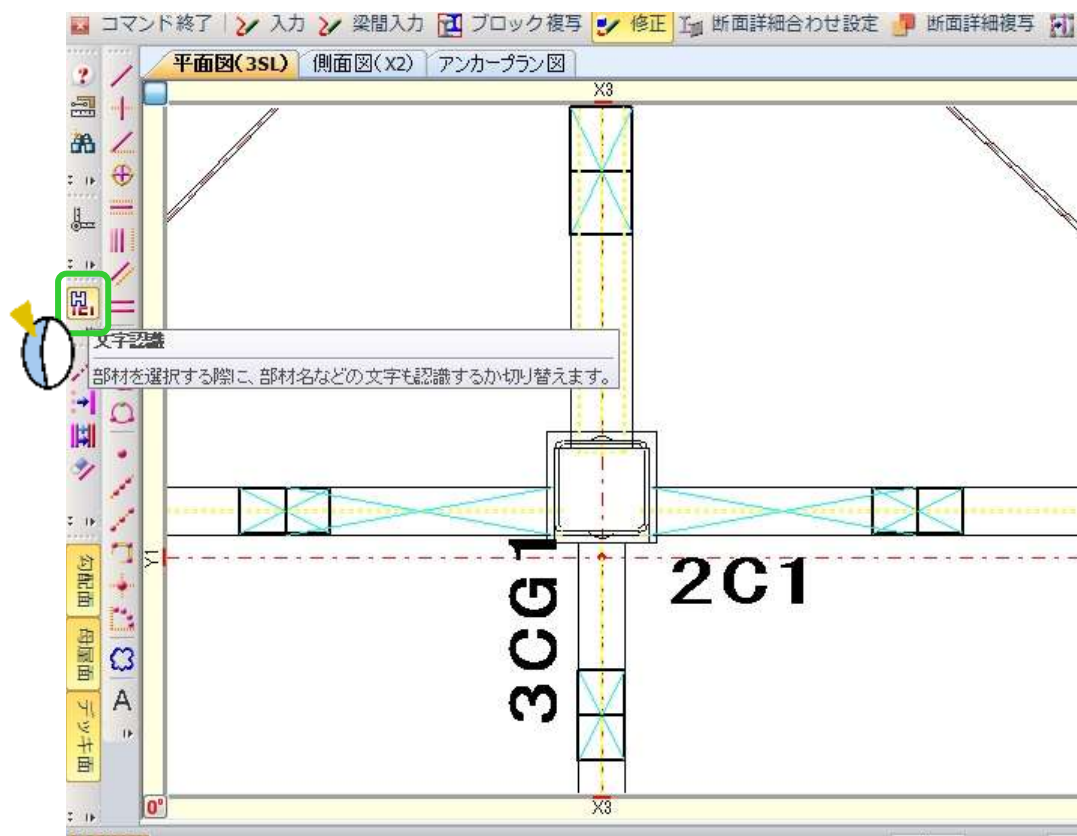
項目名	設定値
<input type="checkbox"/> 符号名	
<input checked="" type="checkbox"/> 部材名	G1
<input type="checkbox"/> サイズ	H-300×150×6.5×9
<input type="checkbox"/> 部材向き	



修正時に部材が選択しにくい

文字認識の ON/OFF の切り替えができます。

【文字認識】を ON にしておくと、部材名（符号名）の文字を認識して部材選択できます。



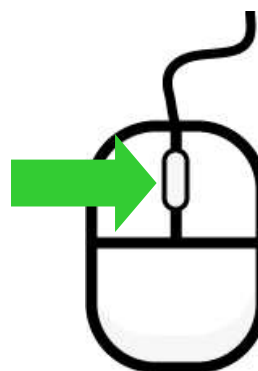
文字認識 ON…部材名などの文字を認識します。



文字認識 OFF…部材名などの文字は認識しません。



文字が重なって、うまく選べない時は
キーボードの **Ctrl** キーを 押しながら
マウスの中央ボタンをコロコロと
動かしてみてください。
どちらを選択するか、切り替わります。



修正時など、特定の部材だけ絞り込んで範囲選択できますか？ フィルターやし点のチェックでできます！

フィルター編

例) 大梁だけ選択して修正したい。

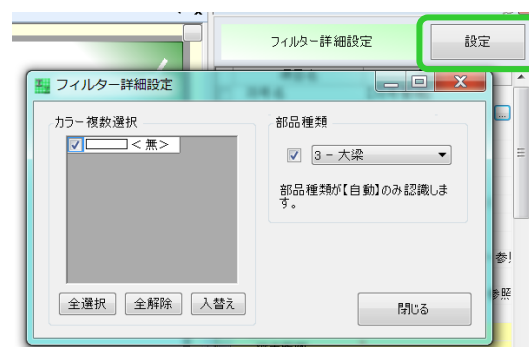
【本体】 - 【梁】 - 【修正】をクリックします。

フィルター詳細設定の「設定」ボタンをクリックすると

右図のウィンドウが開きますので、部品種類で「大梁」を選択します。

フィルター詳細設定ウィンドウを閉じずに、配置画面上で範囲選択を
すると、大梁のみ絞り込みで選択をすることができます。

ただし、フィルターで認識する部品種類は「自動」になっているものだけですのでご注意ください。



部品種類やカラー選択をした後
閉じるボタンを押すとフィルター詳細設定そのものが
無効となってしまいます！

し点チェック編

例) B1 を+50 にし忘れた。一つ一つクリックして選択するのは大変なので B1 だけ一括選択したい。

【本体】 - 【梁】 - 【修正】をクリックします。

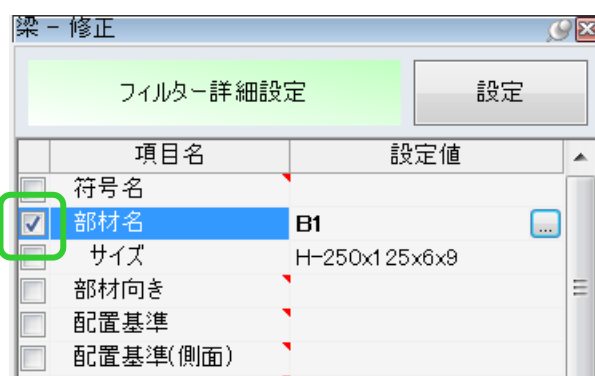
部材名の項目で「B1」を選択します。

このとき必ず、部材名の項目にし点のチェックを入れて下さい。

チェックを入れることにより、

部材名による絞り込み検索が有効になります。

この状態で範囲選択すると B1 のみを認識します。



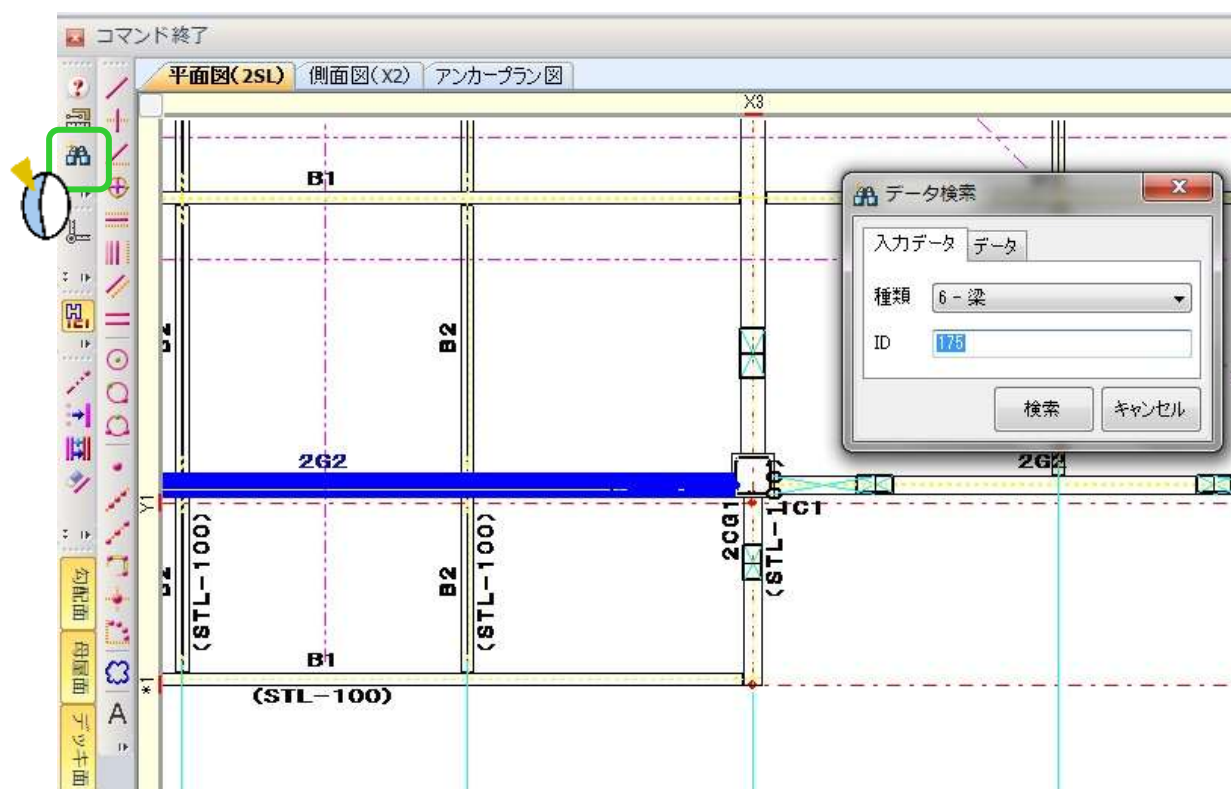
部材名が「G1」で配置基準「左側」など、
複数項目にチェックを入れて絞り込むことも
できます。



IDから部材を探すには？

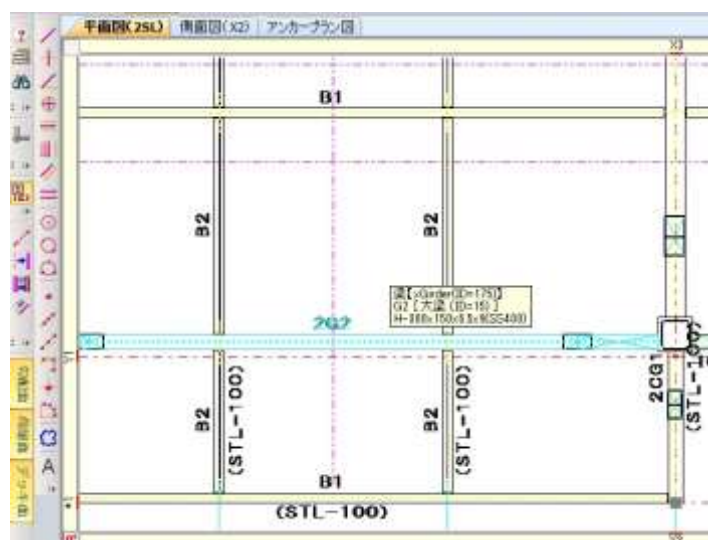
【データ検索】で部材の種類とIDを入力してください。

【データ検索】で、部材種類とIDを入力すると該当する部材が青く強調表示されます。



照会コマンドなどで
確認したい部材に合わせるだけで
IDが表示されます。

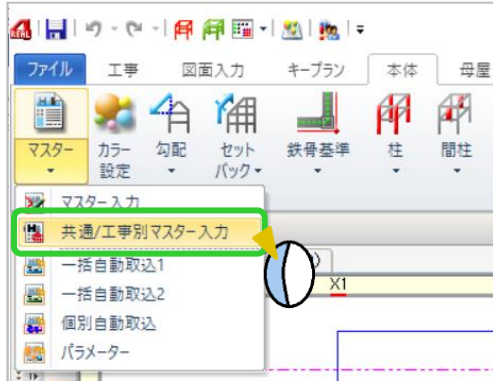
IDは入力した物、
全てに付与されます。
(補助線や勾配等にも)



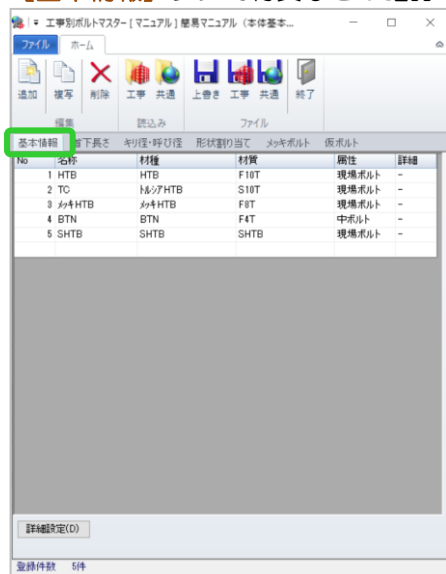
ボルトのHTBとTCは何が違うの？

ボルトマスターで確認できます。

【本体】 - 【マスター】 - 【共通/工事別マスター入力】をクリックし、【ボルトマスター】を選択します。



【基本情報】タブで材質などが確認できます。



HTBは六角ハイテンションボルト（F10T）、
TCはトルシア形高力ボルト（S10T）です。



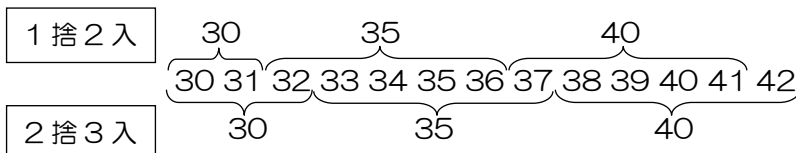
【名称】は継手マスターや継手基準図で表示されるボルトの名称です。

継手マスターや継手基準図でTCを特HTBと表示したい、など
継手マスターや継手基準図でのボルトの名称を変更したい場合は
【基本情報】タブで【名称】を変更してください。



【首下長さ】タブでは、【継手マスター】の【ボルト長さ】で
〈自動計算〉を選択した際のボルトの首下長さの計算基準を、
ボルト径別の調節値や計算方法で設定できます。

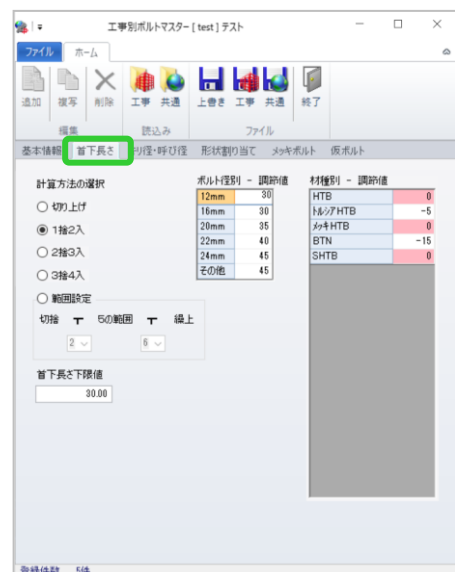
《1捨2入と2捨3入の計算方法》



例) 板厚と調整値を足した結果「37」になった場合

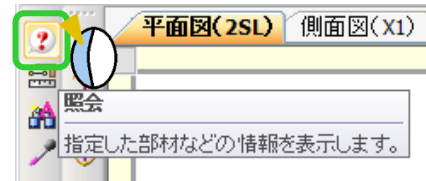
1捨2入：首下長さは「40」

2捨3入：首下長さは「35」

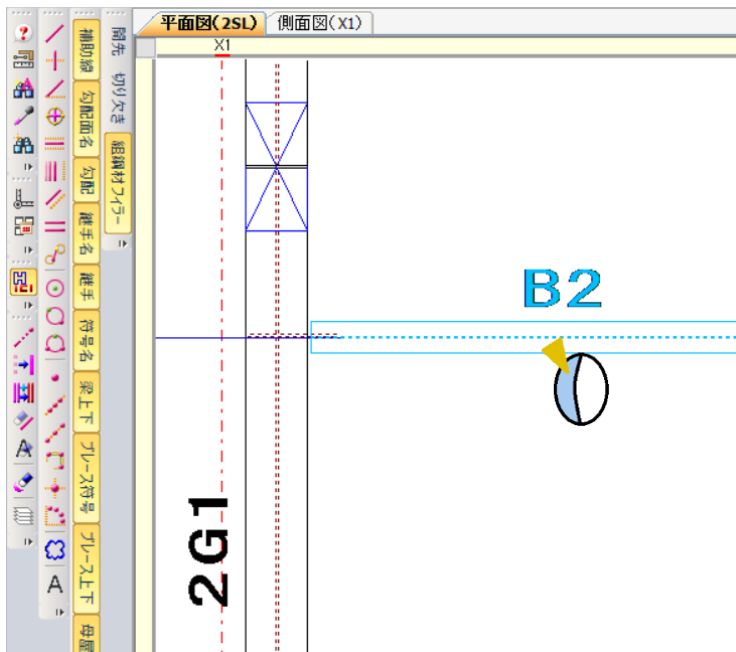


柱や梁のサイズ等の情報を知りたい！ 照会で確認することができます。

【照会】をクリックし、情報を知りたい部材をクリックします。



部材のサイズや接続情報等、配置した部材に関する情報を確認することが出来ます。



照会 [31]	
照会項目	入力 データ 図形
3D連動	する しない
項目名	設定値
種類	梁
ID	19
符号名	2B2-1【符号管理】
部材指定	個別
部材名	B2 [小梁 (ID=2)]
サイズ	H-200x100x5.5x8
材質	1 - SS400
部材向き	5 - 縦
配置基準	1 - 部材芯
配置基準(側面)	2 - 上側
上下基準	2 - 階上下(鉄骨ライン)
上下数値	0
奥行き数値(側面)	0
転び	1 - (垂直(梁))パラメーター参照
部品種類	1 - (小梁)自動
梁勾配合わせ	1 - (梁勾配)パラメーター参照
けた梁高さ	1 - (柱芯)パラメーター参照
納め	1 - 自動
左側	
継手距離	0
継手(左)	(BJ20)マスター参照
すきま(左)	(10)マスター参照
ハンチWEB基	1 - (マスター)自動決定
垂直ハンチ合	1 - 自動
接続情報	梁 [ID = 1]
右側	
継手距離	0
継手(右)	(BJ20)マスター参照
すきま(右)	(10)マスター参照
ハンチWEB基	1 - (マスター)自動決定

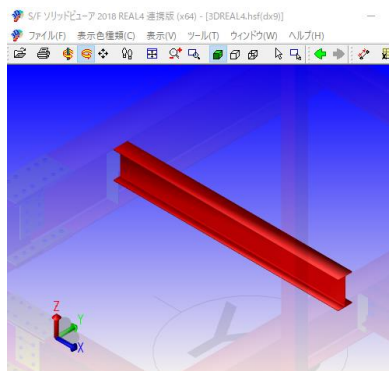


照会項目では「データ」で工区や建方等の情報が表示できます。

また、3D 連動を「する」にしておくと、3D ソリッドビューを起動しておくと連動します。

部材をクリックすると、3D ソリッドビューで部材が強調表示されます。

照会 [31]	
照会項目	入力 データ 図形
3D連動	する しない
項目名	設定値
種類	部材
データID	30
符号	2B2-1
工区	<無> [自動]
建方	<無> [自動]
塗装	<無> [自動]
分類	<無> [自動]
出荷	<無> [自動]
グループ	<無> [自動]
節の位置	1 [自動]
データフラグ	実データ
部品種類	小梁
サイズ	H-200x100x5.5x8
材質	SS400





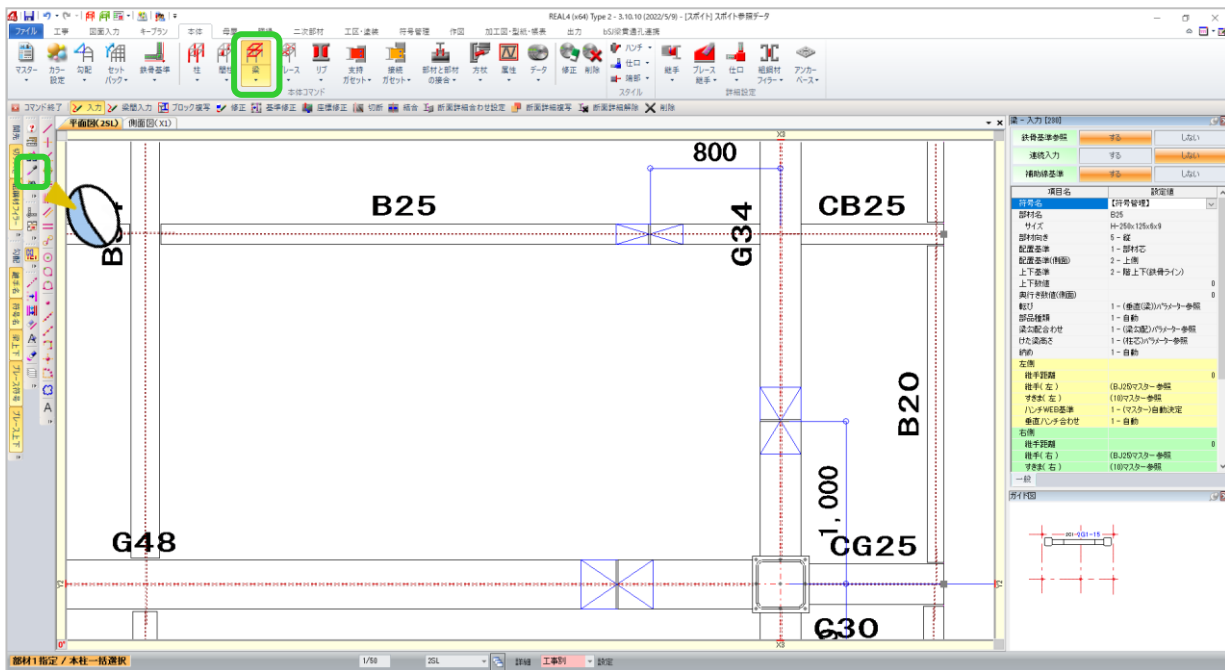
すでに配置している部材と同じ条件で入力したい！

スポイトにて配置済みの部材入力条件を取得できます。

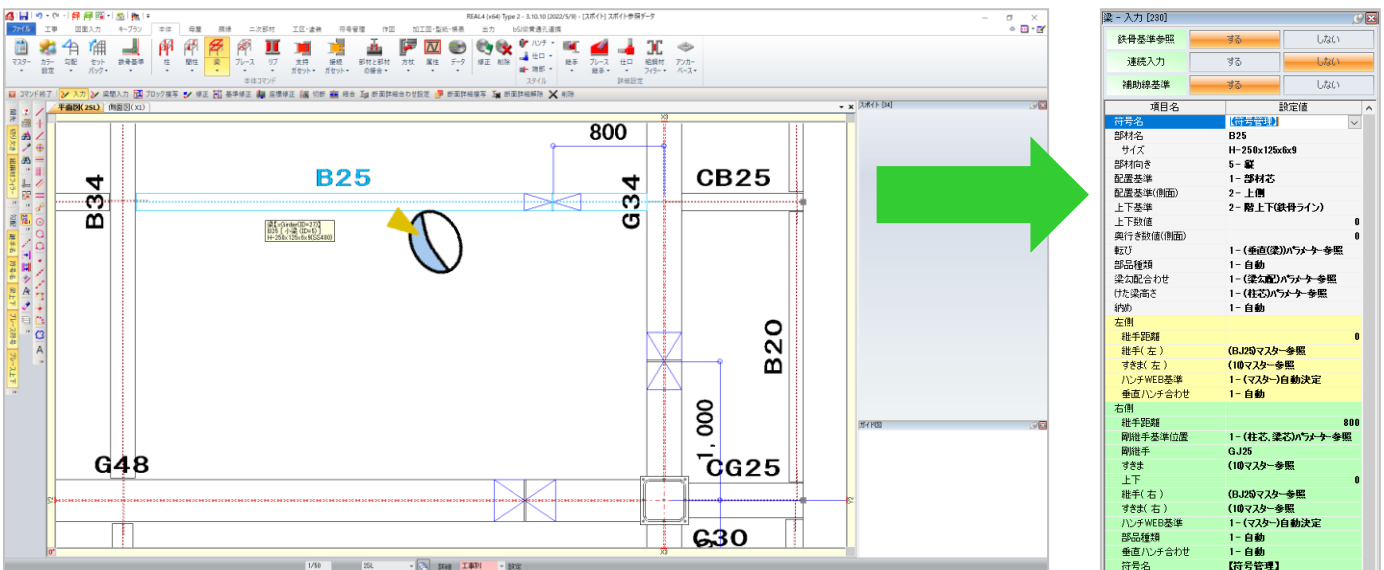
配置する部材を入力するコマンドを起動した状態で、画面左側のツールバーより【スポイト】をクリックし、データを取得したい配置済みの部材を選択することで入力内容や条件等を読み込むことができます。

例) 配置している梁と同じ条件の梁を、別の位置に配置したい。

【梁】-【入力】をクリックしてから、【スポイト】をクリックします。



配置済みの梁をクリックすると、入力項目に設定されている内容が読み込まれ、同じ条件で梁の配置ができます。
柱・間柱・ブレース等もスポイトを使用し同じ条件の部材が配置できます。

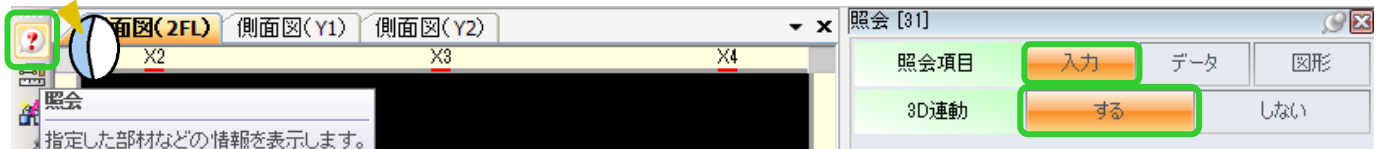




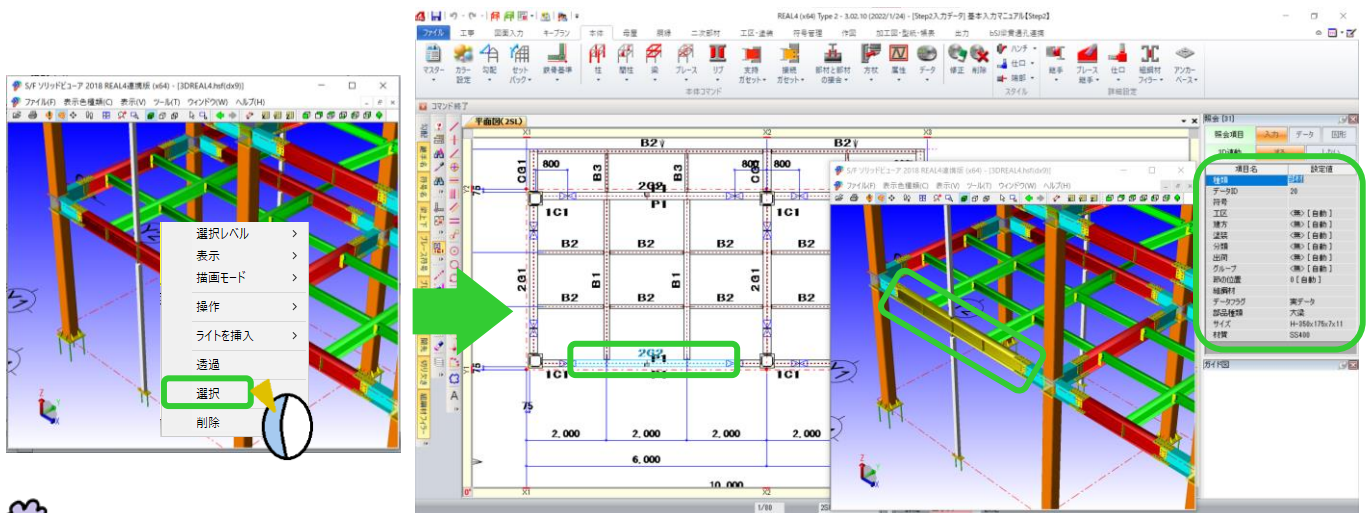
3D Viewer上で選択した部材を配置画面で確認したい！ 照会コマンドと、3D Viewerの操作で確認できます。



【照会】をクリックし、【照会項目】**入力**【3D 連動】**する**を選択します。

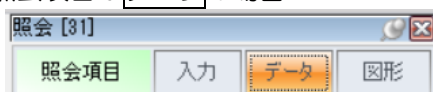


【3D Viewer】を開き確認したい部材の上で**右クリック**をし、**選択**をクリックすると、配置画面にて確認する事ができ、選択した部材の情報も表示されます。



照会【照会項目】・【単位】について

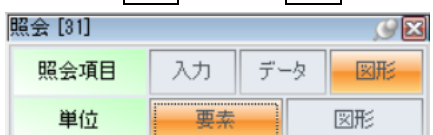
照会項目が**データ**の場合



設定されている工区や分類を確認できます。工区などの色のみで判別が難しい時はこちらが便利です。

ブラケットのサイズ・材質情報も確認できます。

照会項目が**図形**、単位が**要素**の場合



選択した線分や部材名をクリックすると、作図されているレイヤーや線種、文字サイズ等が確認できます。

照会項目が**図形**、単位が**図形**の場合



寸法線の線分や文字などの図形情報を確認する事ができます。

登録した継手や部材を選択しやすいように並べ替えたい！ 部材マスターで変更できます。

例) 継手を継手名順に並べ替える場合

【本体】 - 【マスター】 - 【継手マスター】を開きます。

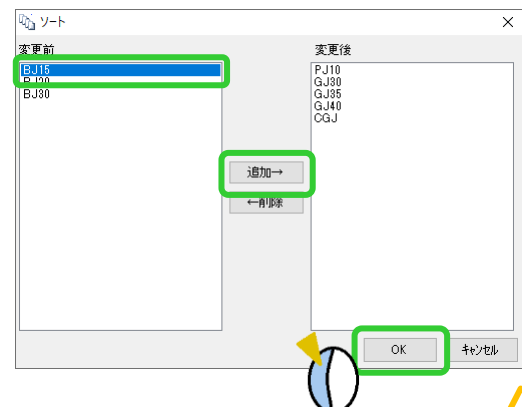
【ソート】をクリックし、【部材名】・【昇順】を選択して **OK** をクリックします。

The '継手マスター' window displays a table of joints. The '部材ソート' dialog box is open, showing the '基準' (Criteria) tab with '部材名' (Material Name) selected, and the '順序' (Order) tab with '昇順' (Ascending) selected. The 'OK' button is highlighted.

継手名	部材種類	継手種類	サイズ	材質
PJ10	間柱	ガゼット	□ - 100x100x2.3	STKR400
GJ40	大梁	スプライス	H - 400x200x8x13	SS400
GJ35	大梁	スプライス	H - 350x175x7x11	SS400
GJ30	大梁	スプライス	H - 300x150x6.5x9	SS400
BJ30	小梁	ガゼット	H - 300x150x6.5x9	SS400
BJ20	小梁	ガゼット	H - 200x100x5.5x8	SS400
BJ15	小梁	ガゼット	H - 150x75x5x7	SS400
CGJ	大梁	溶接	H - 400x200x8x13	SS400

継手名	部材種類	継手種類	サイズ	材質
BJ15	小梁	ガゼット	H - 150x75x5x7	SS400
BJ20	小梁	ガゼット	H - 200x100x5.5x8	SS400
BJ30	小梁	ガゼット	H - 300x150x6.5x9	SS400
CGJ	大梁	溶接	H - 400x200x8x13	SS400
GJ30	大梁	スプライス	H - 300x150x6.5x9	SS400
GJ35	大梁	スプライス	H - 350x175x7x11	SS400
GJ40	大梁	スプライス	H - 400x200x8x13	SS400
PJ10	間柱	ガゼット	□ - 100x100x2.3	STKR400

- 部材ソートの基準**
- 部材名**：部材名（継手名）で並び替えます。
 - サイズ**：材種 No（2-H、4-L 形鋼など）で並び替えた後、サイズで並び替えます。
 - 入力順**：部材を入力した順に並び替えます。
 - カスタム**：任意の順番に並び替えます。カスタムを選択し **OK** をクリックすると、ソート画面が起動します。
- 【変更前】から並べたい部材を選択し **追加→** をクリックし
【変更後】に並びます。
OK をクリックすると、部材マスターの並び順に反映します。
変更前に部材が残っている状態で **OK** をクリックすると、
変更後の並び順の後ろに並びます。



部材マスターのプレビュー画面の表示を大きくしたい！ マスターのツールで設定をします。

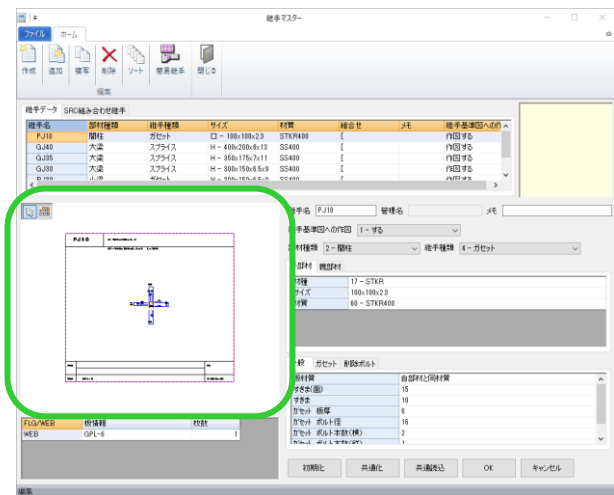
【マスター】 - 【ツール】 - 【オプション】をクリックします。

【プレビューを別ウインドウにする】にチェックを付けて、**OK**をクリックします。

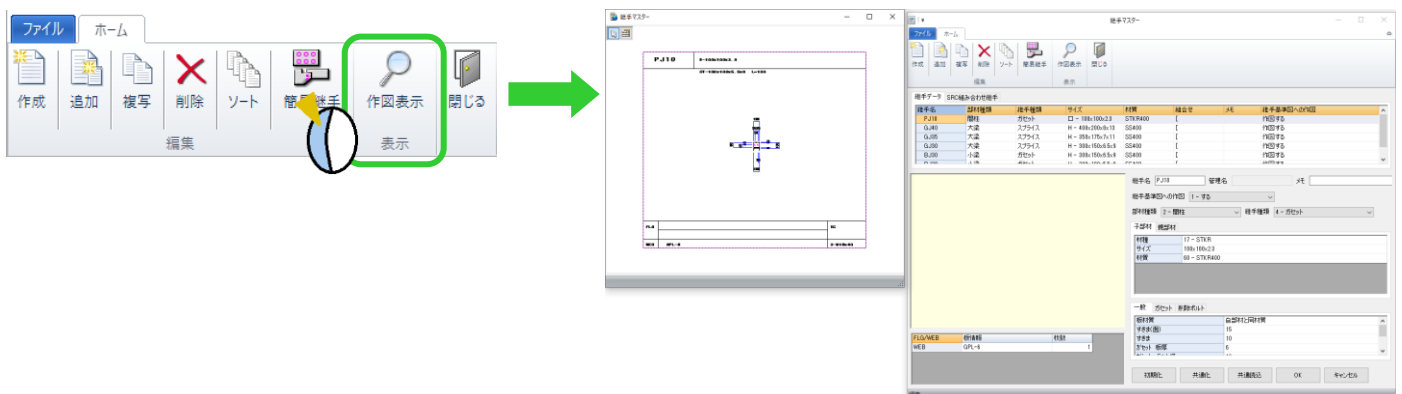


【プレビューを別ウインドウにする】にチェックがない場合、マスター画面内にプレビューを表示します。

例) 継手マスター



各マスターを起動して**作図表示**をクリックすると、プレビューを別ウインドウで大きく表示します。



マスター作成時の「追加」の使い方を知りたい！

部材名は同じで形が異なる部材を登録できます。

例) ガセットの名前は同じで、通りによってボルトの個数が異なるものを登録したい。

継手マスターを開き、編集の状態で作元となる親データのガセットプレートを選択します。

【追加】をクリックします。



【管理名】を入力します。(管理名は図面に反映されません)

ボルト本数を変更し、【OK】をクリックし登録します。

親データの下に子データが作成されます。

継手名 B.J20 管理名 A

継手基準図への作図 1 - する

部材種類 4 - 小梁 継手種類 3 - ガセット

子部材	親部材
材種	2 - ト形鋼
サイズ	200x100x5.5x8
材質	1 - SS400

一般 ガセット 削除ボルト

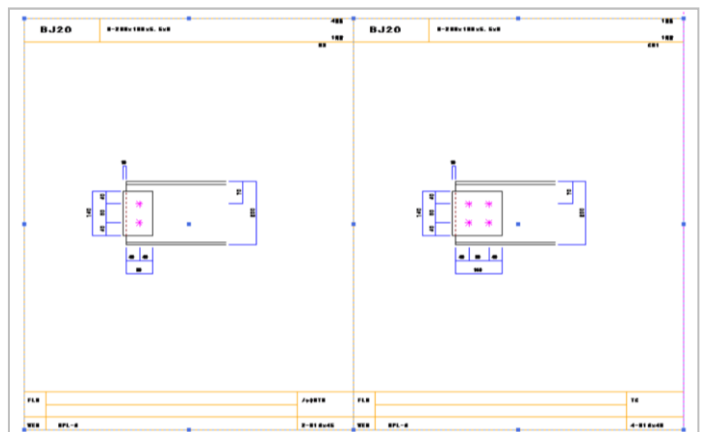
板材質	自部材と同材質
すきま(面)	15
すきま	10



継手名	部材種類	継手種類	サイズ	材質
BJ10	小梁	ガセット	C - 100x50x20x2.3	SSC400
BJ20	小梁	ガセット	H - 200x100x5.5x8	SS400
BJ20A	小梁	ガセット	H - 200x100x5.5x8	SS400
BJ29	小梁	ガセット	H - 298x149x5.5x8	SS400
BJ34	小梁	ガセット	H - 346x174x6x9	SS400

【追加】で作成した継手は、継手基準図などに表示される継手名が親データの名前になり、管理名は表示されません。

1ページ目	
GJ25	2022/10/06 11:46
GJ35	2022/10/06 11:46
GJ45	2022/10/06 11:46
GJ20	2022/10/06 11:46
BJ10	2022/10/06 11:46
BJ20	2022/10/06 11:46
BJ20	2022/10/06 11:46



～子データを親データに変更したい場合～

マスターで、変更したい子データの上で右クリックをすると

【親データに変換】を選択することができます。

継手名	部材種類	継手種類
BJ10	小梁	ガセット
BJ20	小梁	ガセット
BJ20A	小梁	ガセット
BJ29	小梁	ガセット
BJ34	小梁	ガセット

親データに変換

親データを子データに変更したい場合も、同様に右クリックをすると

【子データに変換】と表示され、どの部材を親データにするか選択画面が表示されます。

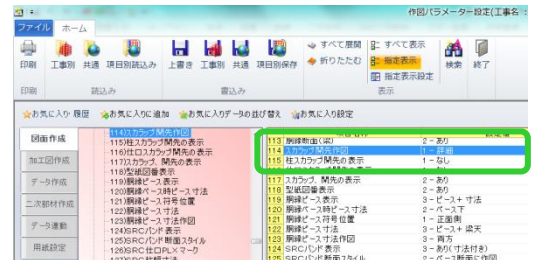
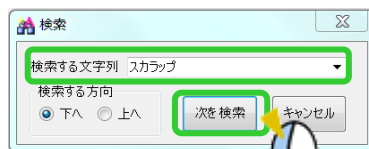
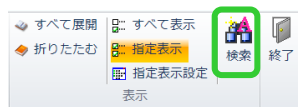


パラメータの項目が多すぎて、探すのが大変！

検索機能やお気に入り・履歴を活用したい、使用しない項目は隠すことが可能です

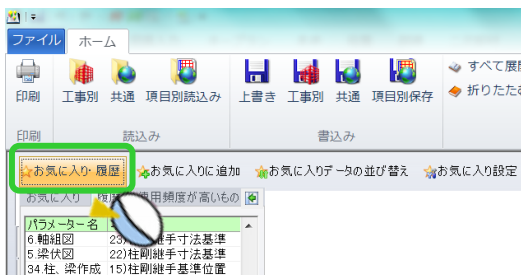
【検索機能】

検索したい文字列を入力し、「次を検索」をクリックするとマッチする項目を表示します。



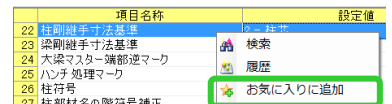
【お気に入り・履歴】

以前設定したパラメータは履歴から選択したり、よく使うものは「お気に入り」に登録しておくことが可能です。



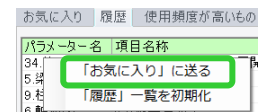
お気に入りに登録するには、登録したい項目の上で右クリックし、

「お気に入りに追加」をクリック



履歴データからも、登録したい項目の上で右クリックし、

「お気に入りに送る」をクリック



【並びなどを変更したい】

★お気に入り設定

項目の並び替えや関連する項目ごとに色分けが可能です



【お気に入り画面を固定したい】

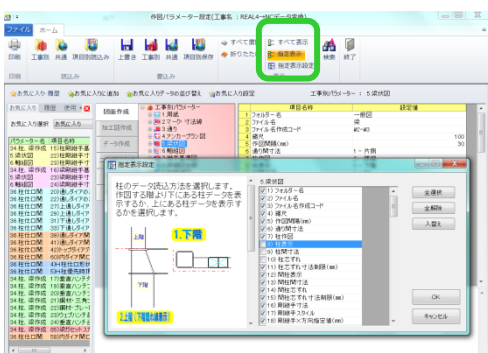


このボタンをクリックするとで常に「お気に入り」画面を表示できます



【使用しない項目を隠す】

「指定表示設定」より、変更する必要がないパラメータなどを非表示にすることが可能です



すべて表示

→ 指定表示設定に関わらず、すべての項目を表示

指定表示

→ 指定表示設定にて☑があるもののみ表示

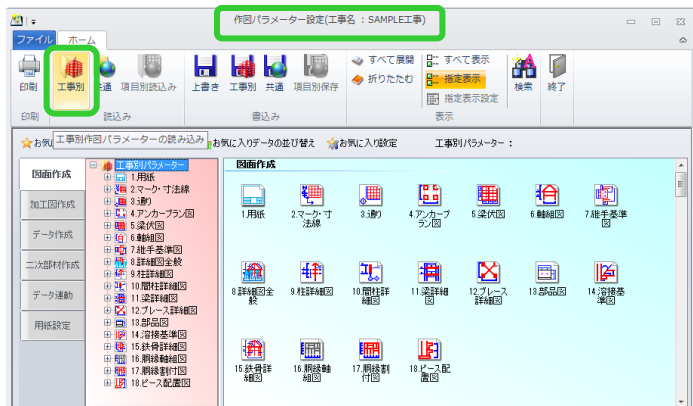
指定表示設定

→ パラメータに表示する項目を選択

作図パラメーター等にある「上書き」「工事別」「共通」の違いは？ 上書きは現在読込んでいるパラメーターによって異なります。



工事別パラメーター → **選択工事名**を表示



共通パラメーター → 『**共通パラメーター**』と表示



工事別パラメーターを読込んでいる状態で、

【上書き】→ 選択中の工事パラメーターに上書き保存

【工事別】→ 選択中の工事パラメーターに上書き保存

【共通】→ 新規で工事を作成する際の初期パラメーター等に使用できる共通パラメーターとして保存

共通パラメーターを読込んでいる状態で、

【上書き】→ 読込んでいる共通パラメーターに上書き保存

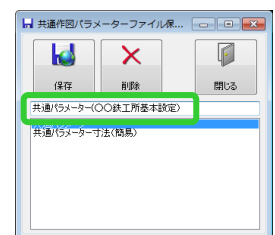
【工事別】→ 読込んでいる共通パラメーターの内容を選択中工事のパラメーターの設定として保存

【共通】→ 既存の共通パラメーターを選択し上書き保存または、名前を付けて新規保存



共通パラメーターへ保存される場合は、必ず名前を付けて保存してください。

初期値として保存されている『共通パラメーター』や『共通パラメーター寸法(簡易)』などに上書きすると、バージョンアップ等のタイミングで上書きされてしまう場合があります。



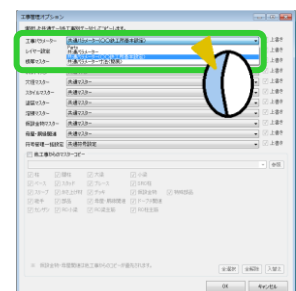
共通パラメーターで保存した設定を、新規で工事を作成する際の

初期値にしたい場合は、

【工事管理オプション】 - 【工事パラメーター】より

初期値として読み込みたい共通パラメーターを選択して下さい。

その他、ボルトマスターや符号管理なども同様に初期値の選択することが可能です。

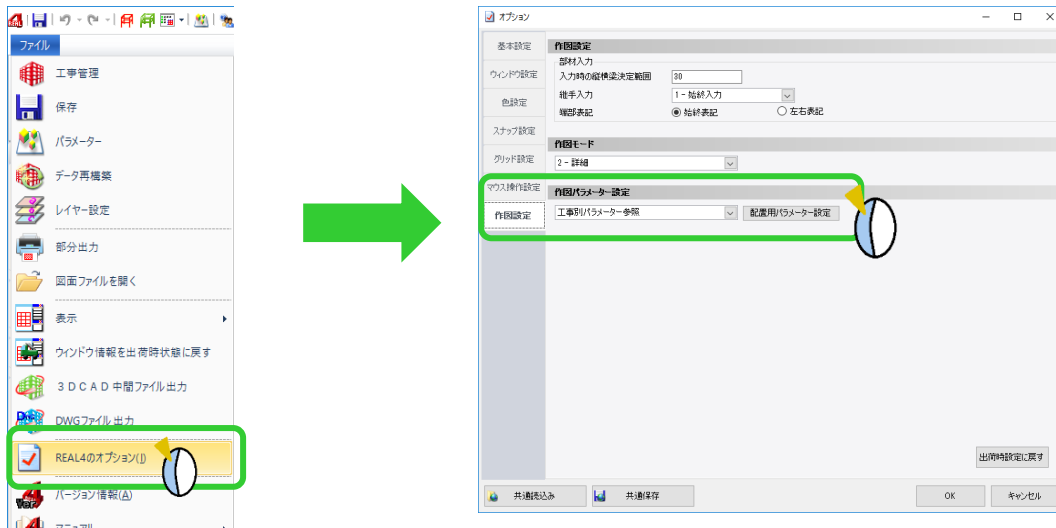




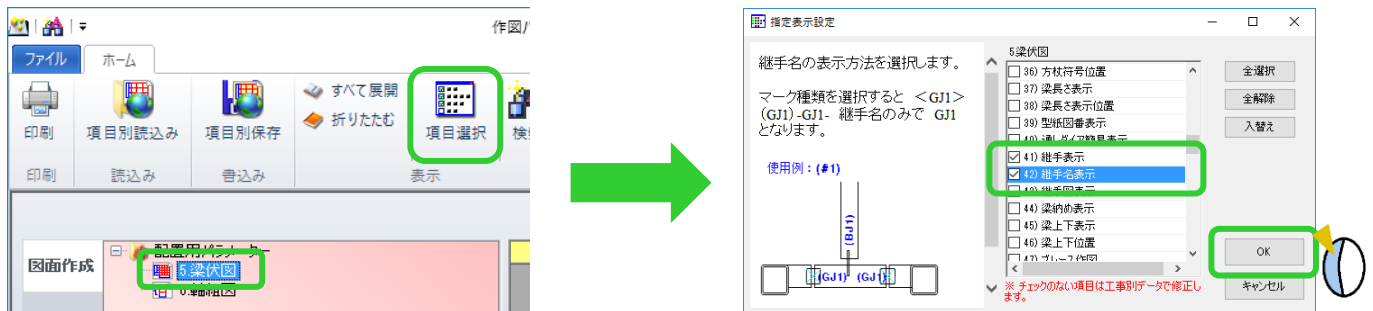
入力画面上のみ継手名を表示させたい！

配置用パラメーターで設定が出来ます。

【ファイル】 - 【REAL4 のオプション】 - 【作図設定】 - 【配置用パラメーター設定】をクリックします。



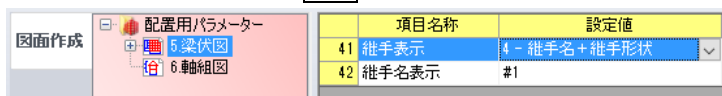
図面作成 - 5.梁伏図をクリックし、画面下の【項目選択】をクリックし、**41) 継手表示・42) 継手名表示** に ☒ を付けて **OK** をクリックします。



チェックを付けた項目のみパラメーター画面に表示します。

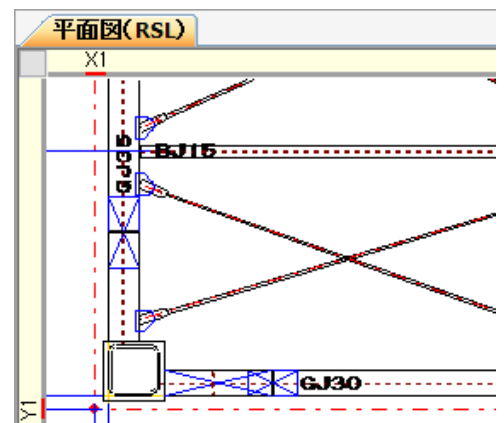
41) 継手表示は継手名を表示するタイプ(2-継手名・3-継手名+スプライス継手、4-継手名+継手形状のいずれか)、**42) 継手名表示**を#1(継手名) に設定します。

REAL4 のオプションを **OK** で終了します。



配置画面下側 中央の

REAL4 オプション 作図パラメーターの切り替えボタンで
どちらのパラメーターを参照するのか切り替えができます。



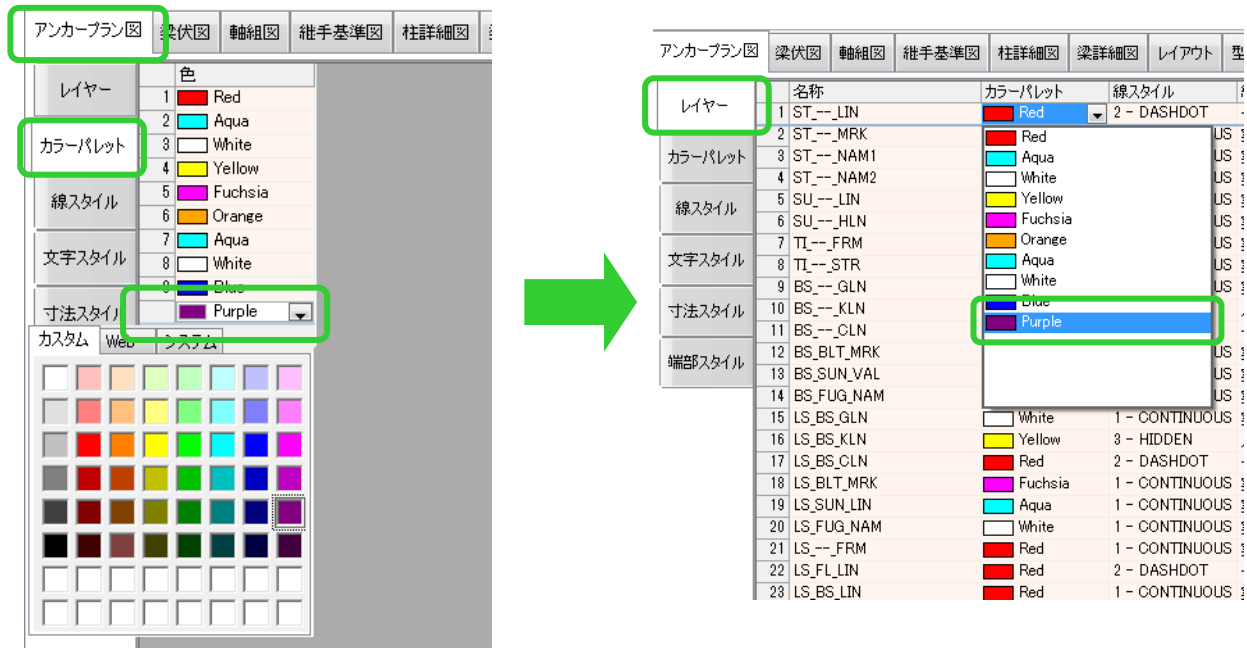
レイヤー設定で選択できる色を増やしたい！ カラーパレットに色を追加します。

【ファイル】 - 【レイヤー設定】を開きます。

設定は図面ごとに分かれていますので、色を追加したい図面を選択し、カラーパレットタブを開きます。

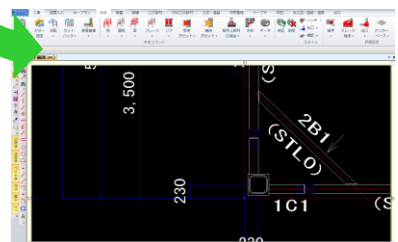
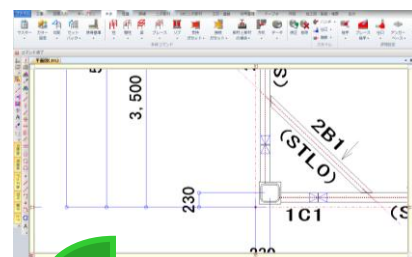
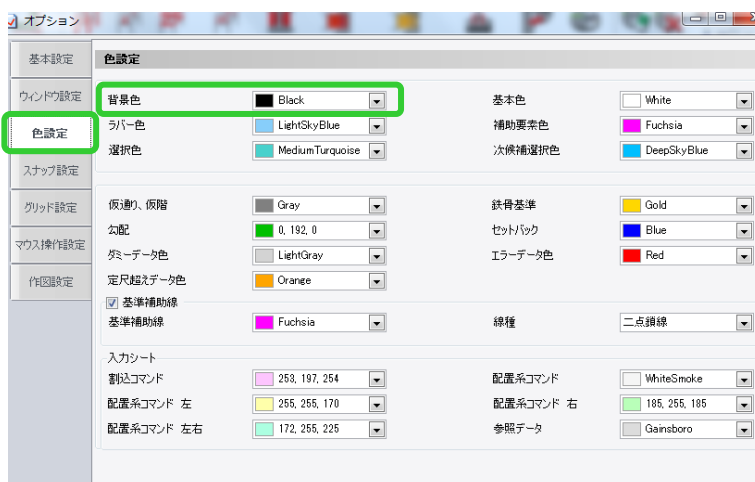
空白行で追加したい色を選択して、追加を行います。

続けて、レイヤータブを開き、カラーパレットを選択すると追加した色が表示されます。



図形が見難く、背景色を変更したい場合、

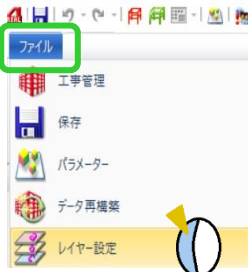
【ファイル】 - 【REAL4 オプション】 - 【色設定】で背景色を変更します。



文字サイズを変更したい！ レイヤー設定で変更できます。

＜図面（梁伏図）の文字サイズを変更したい場合＞

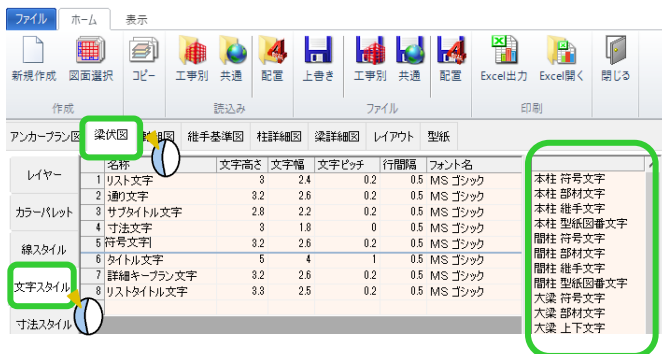
【ファイル】 - 【レイヤー設定】を開きます。



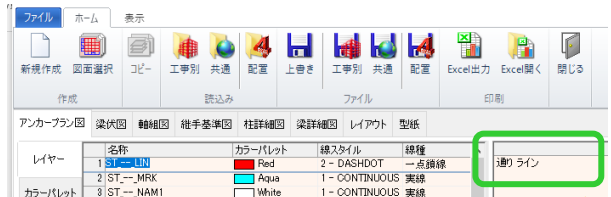
共通・工事別の違いは、Q&A 集 Vol.20-2『作図パラメーター等にある「上書き」「工事別」「共通」の違いは？』を参照してください。

【梁伏図】をクリックし、【文字スタイル】をクリックして文字高さ・幅やフォントを設定します。

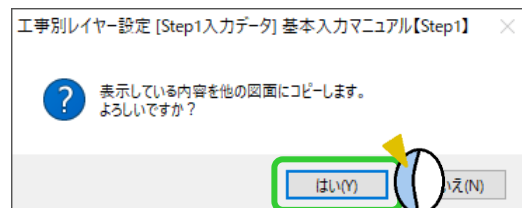
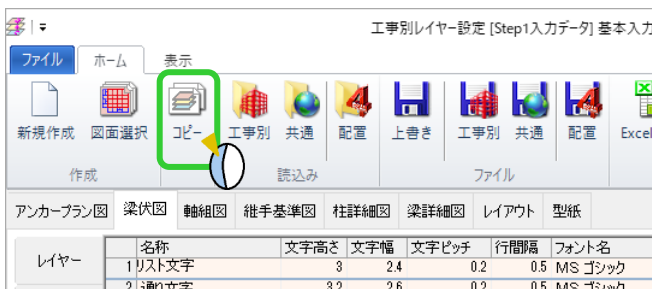
右側に割り当てがされている文字や線が表示されますので、そちらを確認してください。



レイヤー名称が英語表記でわかりにくい場合も、右側の割り当てで確認ができます。



変更した文字スタイルを他のすべての図面に反映させたい場合、【コピー】をクリックし、メッセージの【はい】を選択すると、各図面へコピーされます。



文字スタイルを設定後、ファイルの【上書き】をクリックし、保存します。

変更した設定を今後も使用したい場合は、ファイルの【共通】へ保存を行ってください。

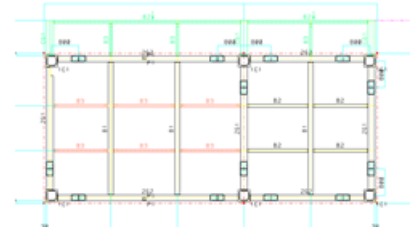
＜配置入力画面の文字サイズを設定したい場合＞

読み込みの【配置】をクリックし、配置レイヤーを読み込んで、各画面の文字高さ・幅やフォントを設定します。



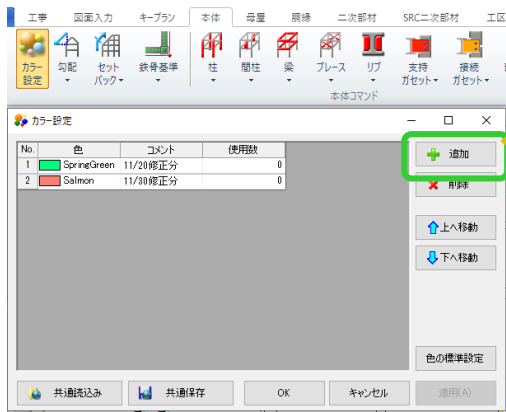
レイヤー	名称	文字高さ	文字幅	文字ピッチ	行間隔	フォント名	スタイル	書き出し方向
1	リスト文字	3	2.4	0.2	0.5	MS ゴシック	標準	横書き
2	通り文字	3.2	2.6	0.2	0.5	MS ゴシック	標準	横書き
3	サブタイトル文字	2.8	2.2	0.2	0.5	MS ゴシック	標準	横書き
4	寸法文字	4	1.8	0	0.5	MS ゴシック	標準	横書き
5	符号文字	3.2	2.6	0.2	0.5	MS ゴシック	標準	横書き
6	タイトル文字	5	4	1	0.5	MS ゴシック	標準	横書き
7	詳細キープラン文字	3.2	2.6	0.2	0.5	MS ゴシック	標準	横書き
8	リストタイトル文字	3.3	2.5	0.2	0.5	MS ゴシック	標準	横書き

未決定の部材や修正した部材に色を付けたい！ カラー設定で設定できます。



【本体】 - 【カラー設定】をクリックします。

カラー設定画面が起動するため【追加】をクリックし、設定する色を選択します。

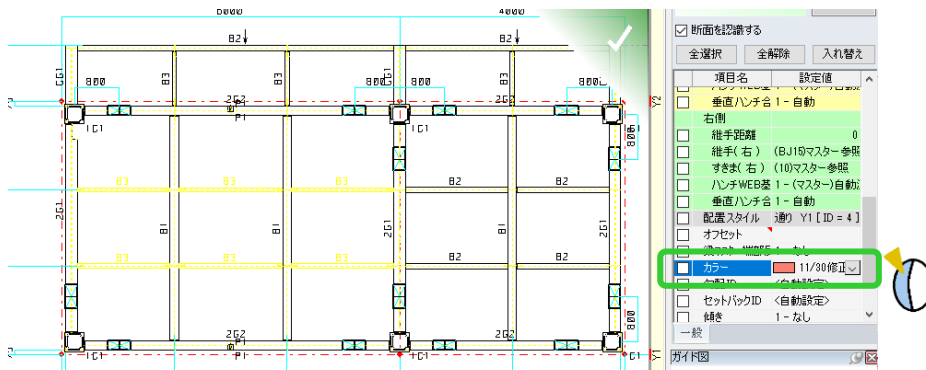


色の標準設定をクリックすると、基本色から自動的に色を割り当てます。

コメントは色設定を区別・内容が分かるよう入力します。
必要な場合に設定してください。

今回は梁にカラー設定をします。

【梁】 - 【修正】で色を付けたい梁をクリックし、【カラー】で追加したカラーを選択して、四隅の☑をクリックします。



作図パラメーター 図面作成 - 5.梁伏図 - 5) カラー出力 を『2-配置』にすると、
カラー設定を参照して作図します。軸組図・鉄骨詳細図・胴縁割付図も同様です。

図面作成	項目名称	設定値
加工図作成	1 フォルダー名	一般図
データ作成	2 ファイル名	梁
二次部材作成	3 ファイル名作成コード	#1
データ連動	4 カラー出力	1 - なし
用紙設定	5 作図間隔(mm)	2 - 配置
	6 通り間寸法	3 - 工区
	7 柱作図	4 - 建方
	8 柱作図R表現	5 - 塗装
	9 柱表示	6 - 分類
	10 柱間寸法	7 - 出荷
	11 柱間寸法	8 - グループ
	12 柱間寸法	9 - 柱間
	13 柱間寸法	10 - 柱間
	14 柱間寸法	11 - 柱間
	15 柱間寸法	12 - 柱間
	16 柱間寸法	13 - 柱間

ルートギャップを変更したい！ **溶接マスターから設定ができます。**

【マスター】 - 【共通/工事別マスター】を開き、【溶接】をクリックして溶接マスターを起動します。

※SF システムメニューからも開くことができます。



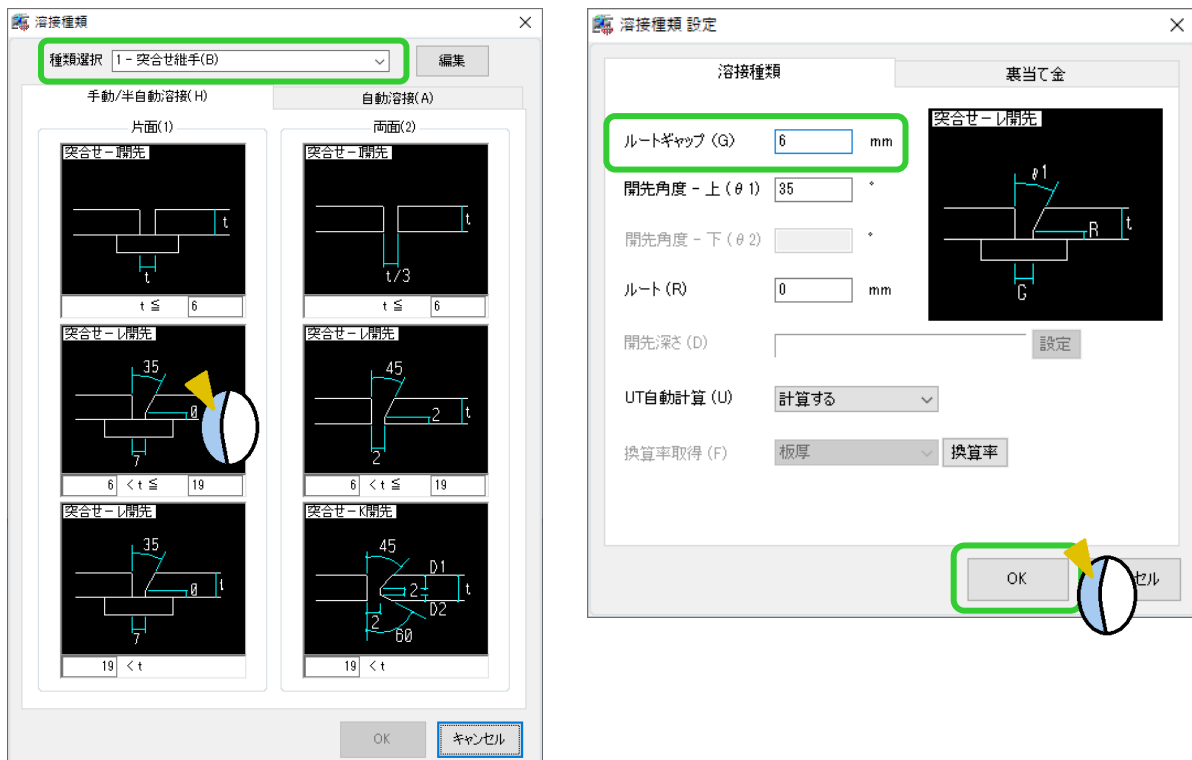
【溶接種類】をクリックします。



種類選択で変更したい溶接種類を選択し、溶接の図をクリックします。

ルートギャップを変更し **OK** をクリックします。

変更した内容は、工事別溶接マスターあるいは共通溶接マスターに保存してください。





共通保存したパラメーターを工事作成時に選択したい！ 工事管理オプションより選択できます。

【工事管理】 - 【新規】をクリックします。



工事番号・工事名称などを入力し、【工事管理オプション】をクリックします。

今回は、作図パラメーターで名前を付けて共通保存したパラメーターを選択し、【OK】をクリックします。

新規工事作成

工事番号: 2021-04

工事名称: ○○工事

工事略称: ○○工事

会社名称: ドッドエルビー・エム・エス

顧客名称:

設計:

監理:

施工:

備考:

作成日時: 2021/04/01

☐ 工事パラメーターを起動する

☐ 他工事からの設定コピーを起動する

初期化 OK キャンセル



工事管理オプション

選択した共通データを工事別データとしてコピーします。

工事パラメーター	共通/パラメーター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
レイヤー設定	共通/レイヤー設定	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
板厚マスター	共通/パラメーター寸法(簡易)	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
	共通/パラメーター(ドッドエルビー)	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
ボルトマスター	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
穴径マスター	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
スタイルマスター	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
塗装マスター	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
溶接マスター	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
仮設金物マスター	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
母屋・胴縁関連	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
符号管理一括設定	共通符号設定-2	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き

☐ 他工事からのマスターコピー

柱 ☒ 間柱 ☒ 大梁 ☒ 小梁

ベース ☒ スタッド ☒ プレース ☒ SRC柱

スリーブ ☒ かさ上げ材 ☒ デッキ ☒ 仮設金物 ☒ 特殊部品

継手 ☒ 部品 ☒ 母屋・胴縁関連 ☒ ドーパ関連

カンザシ ☒ RC小梁 ☒ RC梁主筋 ☒ RC柱主筋

※ 仮設金物・母屋関連は他工事からのコピーが優先されます。

全選択 全解除 入替え

OK キャンセル



一度、選択した項目は記憶されるため、次回からの新規工事作成時の初期値になります。

また、他工事からのマスターコピーを行う場合は、
仮設金物マスター、母屋・胴縁関連は選択できません。

工事管理オプション

選択した共通データを工事別データとしてコピーします。

溶接マスター	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
仮設金物マスター	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
母屋・胴縁関連	共通マスター	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き
符号管理一括設定	共通符号設定-2	<input checked="" type="checkbox"/> 上書き

☒ 他工事からのマスターコピー

20100310 寄庫倉庫-B 参照

会社 開社 木梁 小梁



パラメーター以外に、各マスターで共通保存したものが工事管理オプションで選択できます。

各設定を共通保存する場合は、必ず名前をつけて保存をしてください。

初期値として保存されているものに上書きをすると、バージョンアップ等のタイミングで上書きされてしまう場合があります。

他の工事で登録している部材をコピーして使用したい！ 工事管理オプションで必要部材を選択します。

【工事管理】を起動し、【新規】をクリックします。

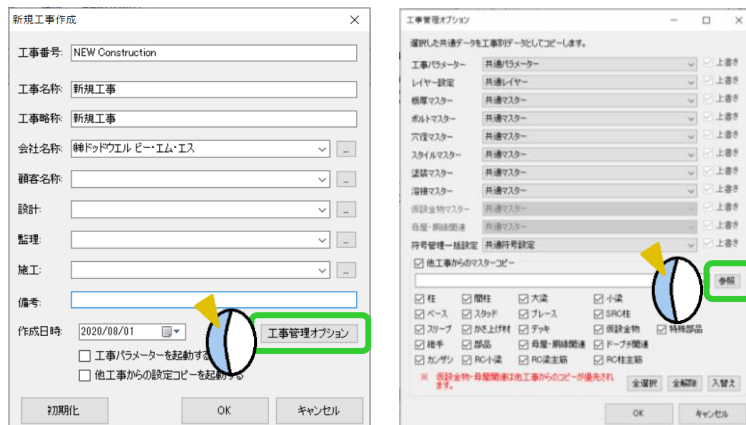
(編集中の工事へコピーする場合は、編集中の工事を選択して【編集】をクリックします。)



工事番号・工事名称・工事略称・会社名称を入力し、【工事管理オプション】をクリックします。

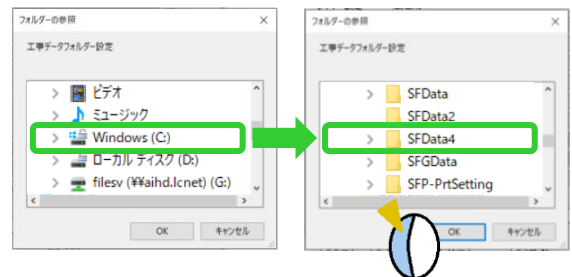
【他工事からのマスターコピー】に☑をして、【参照】をクリックします。

コピーしたい工事データの保存先を選択し、【OK】をクリックします。



例) 保存先が Windows¥SFData4 の 場合

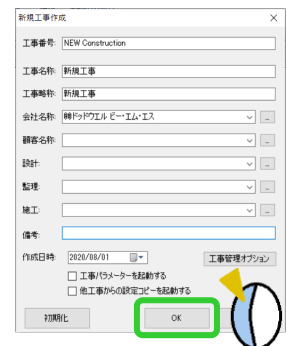
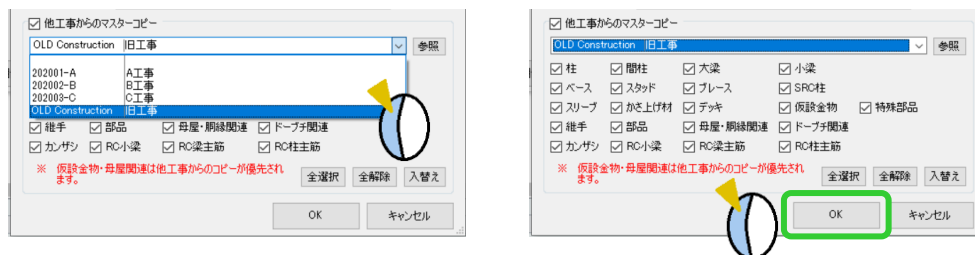
【Windows(C:)】→【SFData4】を順にクリック



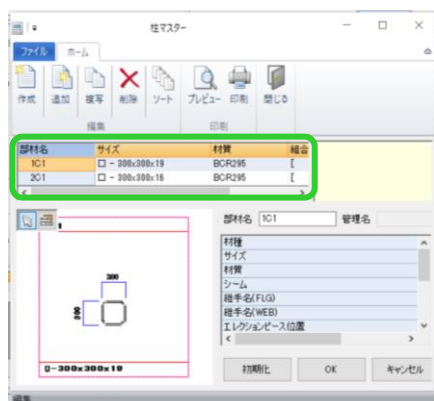
※パソコンにより保存先は異なります。

▼ボタンをクリックし、コピー元の工事を選択して必要なマスターに☑をします。

【OK】をクリックし、新規工事作成画面の【OK】をクリックして終了します。



マスターを開くと、内容がコピーされたことが確認できます。

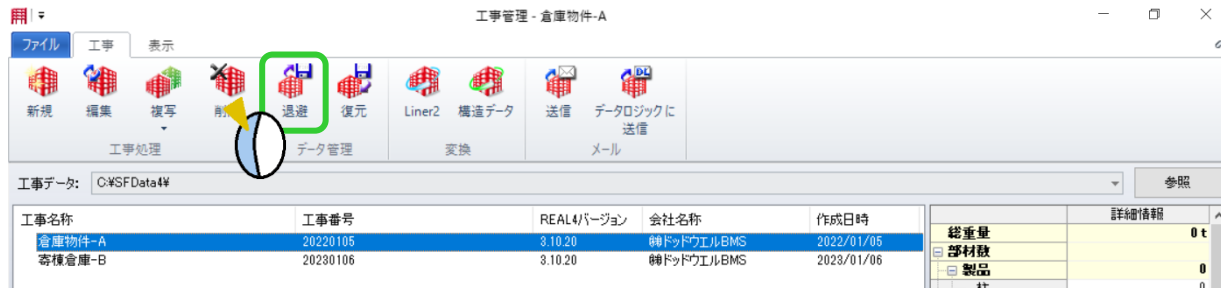


表入力マスター（柱、間柱、大梁、小梁）のマスターコピーは現在未対応ですが、【工事】 - 【本体合算】を行うと表入力マスターの部材もコピーします。編集中の工事へコピーする場合、マスター名と設定値が一致する部材は追加しません。

継手・部品・ベースの各マスターのコピーを行わない場合は、コピーした柱・梁など各部材の継手名・端部部品名・ベース名を設定する必要があります。

REAL4のデータを他社に送りたい！ 工事データの圧縮を行います。

【工事管理】で工事データを選択し、【退避】をクリックします。

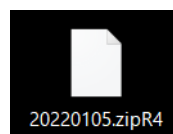


参照をクリックしてデスクトップなど保存先を指定します。

退避方法は『工事番号で1圧縮ファイルにまとめて退避』を選択し、【退避】をクリックします。



退避した工事データは『工事番号.zipR4』という拡張子のファイルになります。



退避データのファイル名を変更する場合は、エクスプローラーで変更しても REAL4 では反映されず、退避時の工事番号で表示されます。工事番号を変更される際は必ず【工事管理】 - 【編集】で行ってください。



自動登録データ、符号管理の履歴データ、見積積算データを含めて退避した際、ファイルサイズが大きくなる場合がありますのでご注意ください。

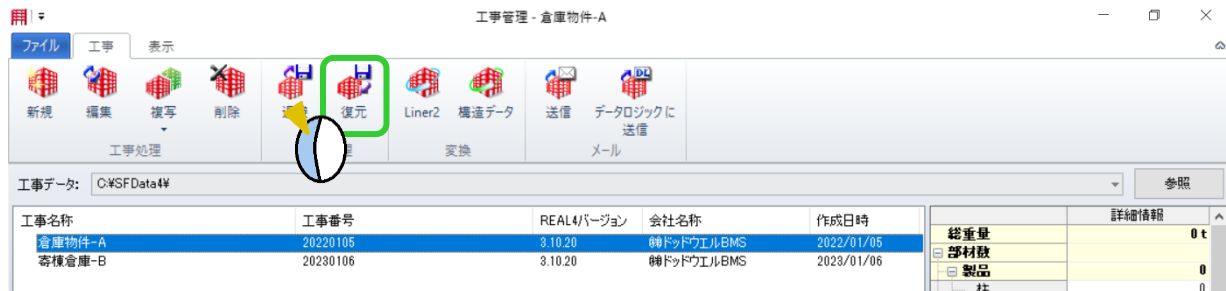
符号管理の比較データ、符号管理の保存データ、管理資料連動データは、【工事】 - 【分割】を行ったデータを退避する際、データを軽くするために☑を入れます。（☑を入れると退避データに含みません。通常は☑を外しておきます。）



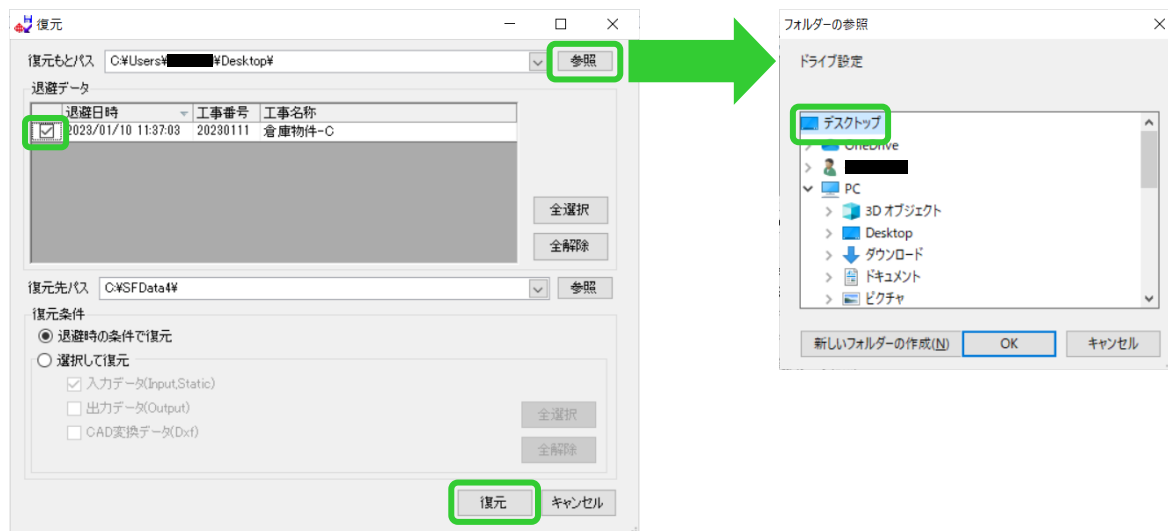
他社から来たREAL4のデータを開きたい！

退避した圧縮データを解凍します。

他社から来た REAL4 のデータ『工事番号.zipR4』をデスクトップなどに保存し、【工事管理】で【復元】をクリックします。

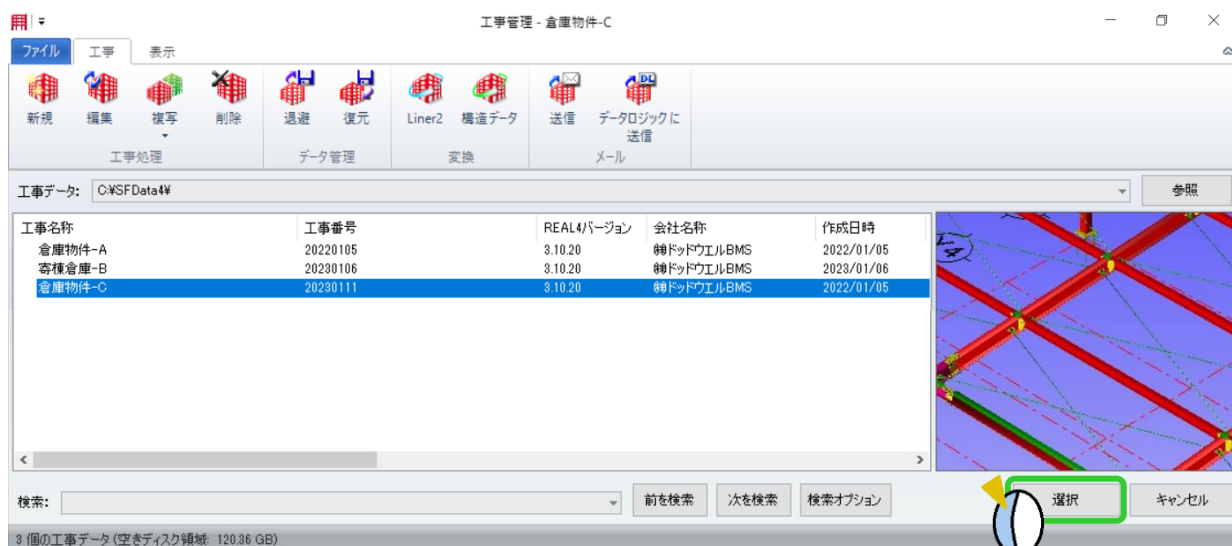


【参照】をクリックして保存先を選択し、復元する退避データに☒を入れ、【復元】をクリックします。



工事管理に復元した工事データが追加されます。

復元した工事データを選択し、【選択】をクリックすると起動します。





工事データをメールで送りたい！

工事管理のメール送信から送れます。

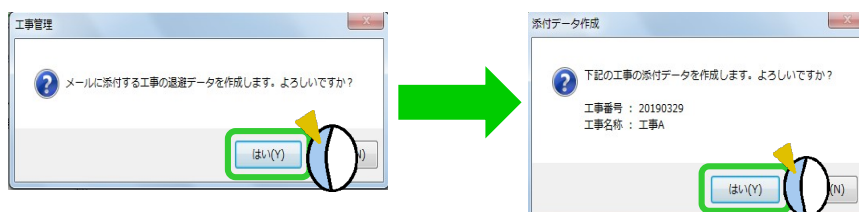
【工事管理】を起動し、メールで送りたい工事を選択して【送信】をクリックします。

（データロジックに送信したいときは【データロジックに送信】をクリックします。）



工事の退避データを作成します。【はい】をクリックします。

工事番号と工事名称の確認メッセージを表示するので、【はい】をクリックします。

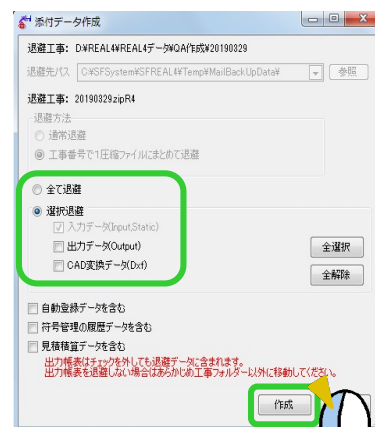


添付データ作成画面が起動します。

工事データのフォルダーすべてを送りたい場合は【全て退避】を選択し、

出力した図面データ（Output）・CAD 変換データ（Dxf）が不要な場合などは

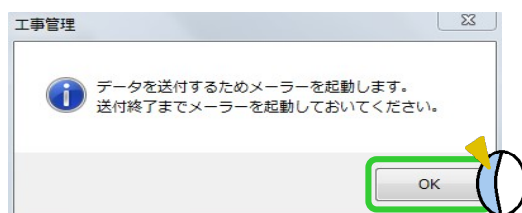
【選択退避】を選択しチェックをはずして、【作成】をクリックします。



自動登録データ、符号管理の履歴データ、見積積算データを含めて退避した際、ファイルサイズが大きくなる場合がありますのでご注意ください。

メーラー起動のメッセージを表示します。

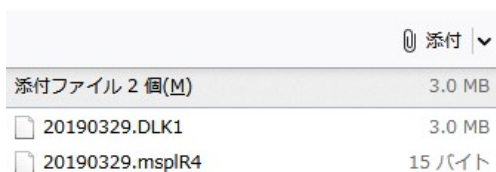
【OK】をクリックします。



規定のメーラーのメール作成画面が起動します。

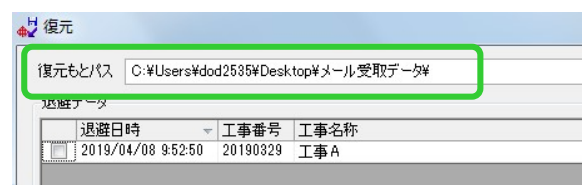
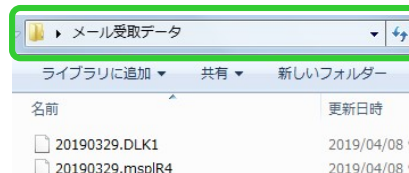
退避した工事データファイルが添付されます。

宛先・本文を入力して送信します。



復元する際は、すべてのデータを同じフォルダーに保存します。

【工事管理】 - 【復元】で復元もとパスにフォルダー名を指定して、退避データの一覧から選択して復元します。

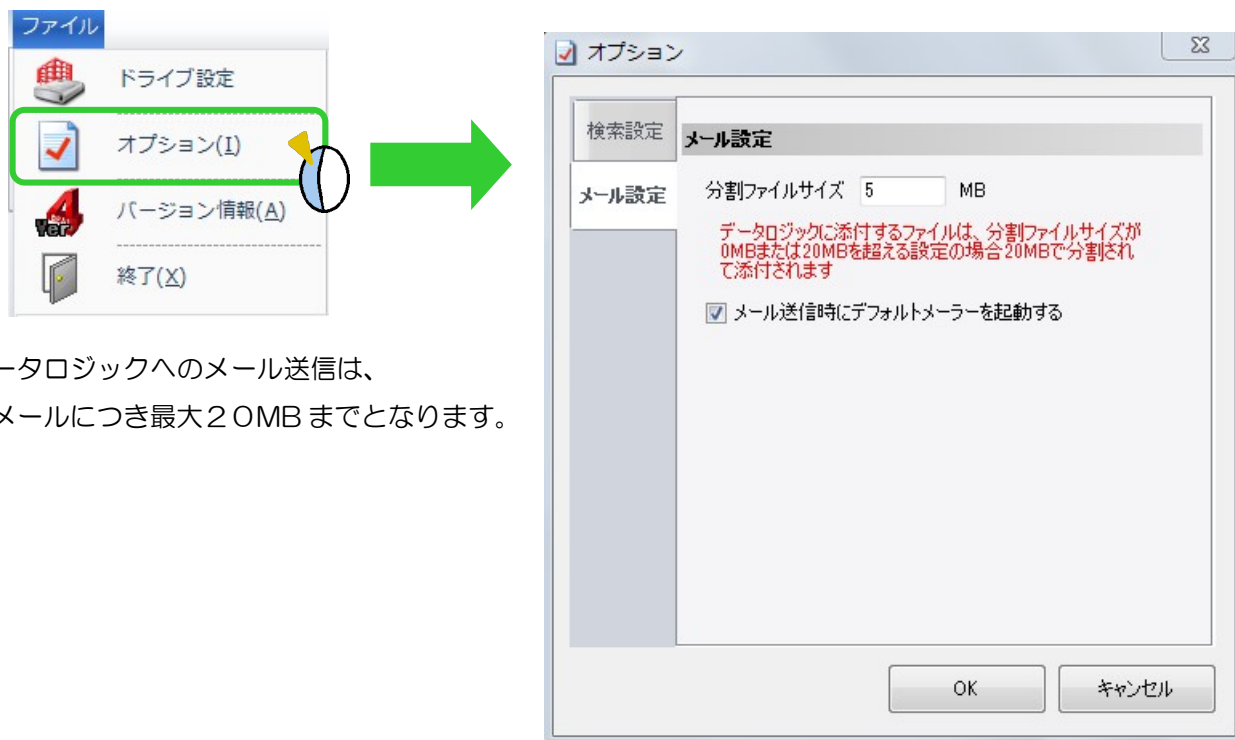




工事データをメール送信する場合、ファイル分割を行うには？ 分割ファイルサイズを指定してメール送信できます。

【工事管理】 - 【ファイル】 - 【オプション】をクリックします。

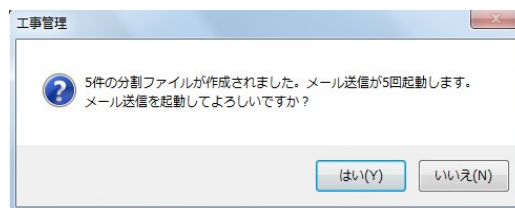
【メール設定】 - 【分割ファイルサイズ】に送信する際のデータファイルサイズを設定します。



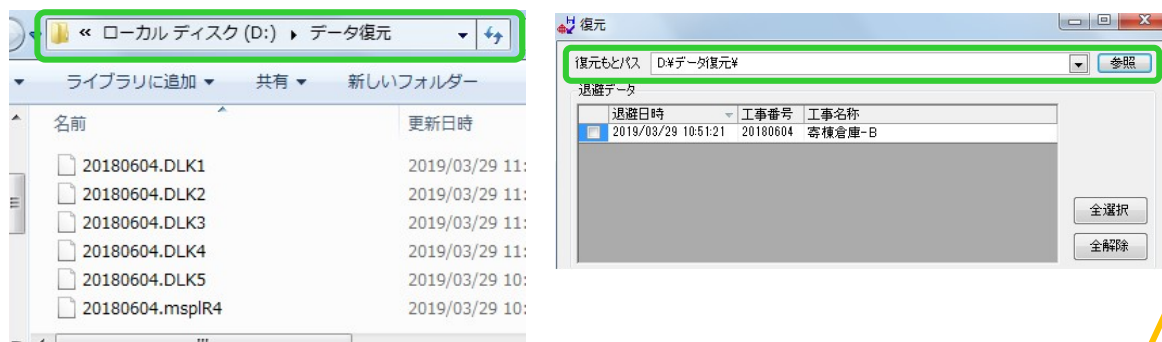
データロジックへのメール送信は、
1 メールにつき最大20MB までとなります。



メール送信実行時は、分割されたファイルの数と
同じ件数のメールを送信します。



退避ファイルを復元する場合は、分割されたすべてのデータを同じフォルダに保存します。
保存したフォルダを復元もとパスに指定すると、退避データの一覧から選択できます。





配置入力画面から一部分を印刷したい！

部分出力で必要な部分を範囲指定して出力できます。

【ファイル】 - 【部分出力】をクリックします。



部分出力は、範囲指定モードを『2-用紙指定』に切り替えることで用紙サイズに合わせて出力することもできます。

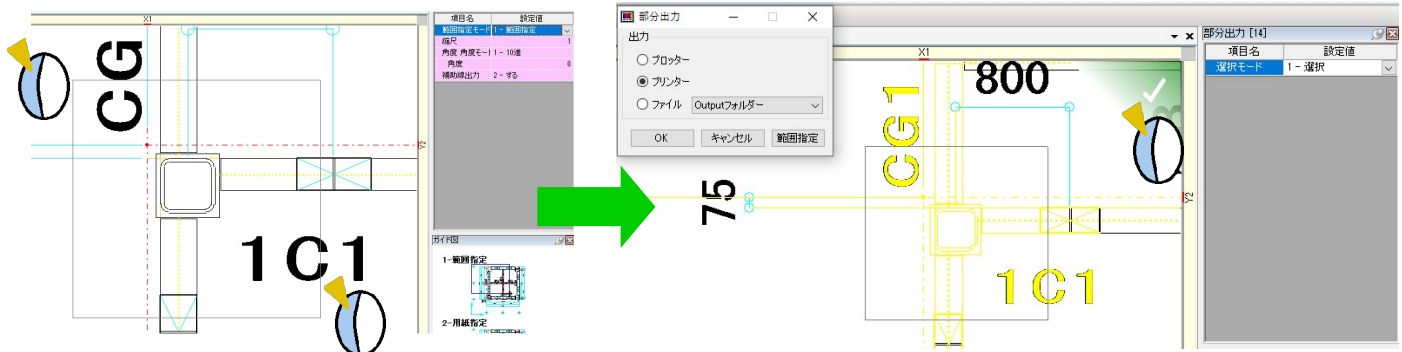


範囲指定後、選択モードを『選択』にすると選択した図形から追加する要素を選択し、『解除』にすると除外する要素を選択できます。

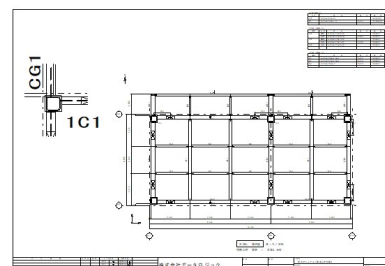
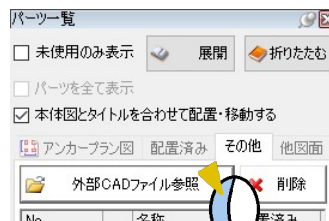
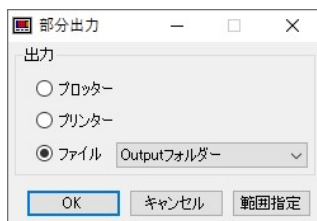


出力する範囲を指定します。出力する範囲の始点（左上）と終点（右下）をクリックします。

指定した範囲が選択色になるので、四隅の☑をクリックし、出力方法を選択して出力します。



ファイル出力をすると、作図 - 【レイアウト】 - 【その他】の【外部 CAD ファイル参照】から読み込んで、別図面に貼り付けることができます。





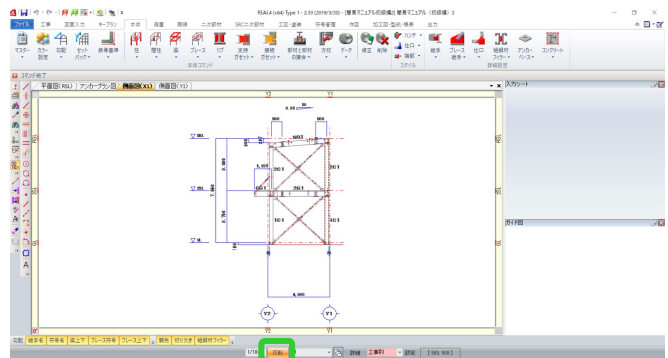
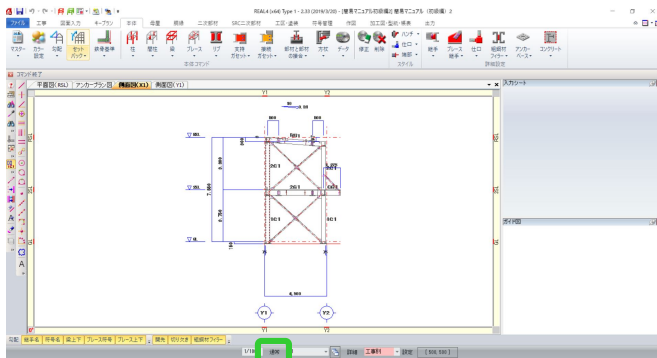
軸組図の視点方向を逆にしたい！

配置画面、作図画面から変更できます。

＜配置画面で視点を変更する方法＞

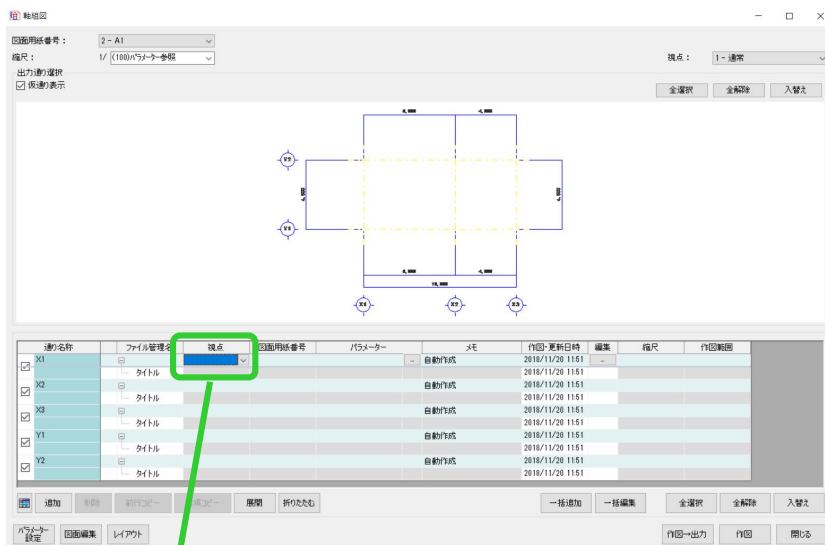
軸組図を開き、画面下部【通常】をクリックします。

【通常】⇔【反転】をクリックすることで視点が切り替わります。



＜作図時に視点を変更する方法＞

【作図】 - 【軸組図】を開き、視点を変更したい通りの【視点】を選択し、作図します。

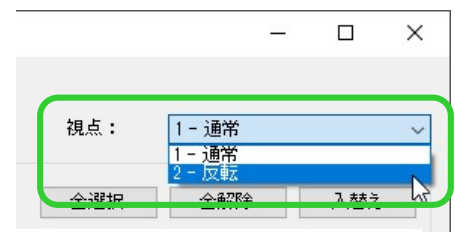


1-通常または 2-反転を選択します



視点を個別に指定しない(視点欄が空白)の場合、軸組図画面右上の【視点】を参照します。

基本的な視点はここで設定し、変更したい通りのみ個別に変更して下さい。





納めが逆になるとき、 軸組図でも納め方向の矢印を表示させたい！

パラメーターで設定を行います

軸組図で、通常とは逆の納め方向にした際、矢印を表示させるにはパラメーター設定の変更が必要です。

【ファイル】 - 【パラメーター】 - 【図面作成】 - 【6.軸組図】の23) 部材納め表示 を選択します。

図面作成

データ作成

二次部材作成

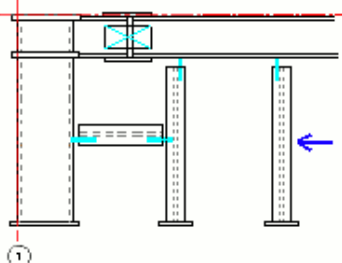
データ連動

用紙設定

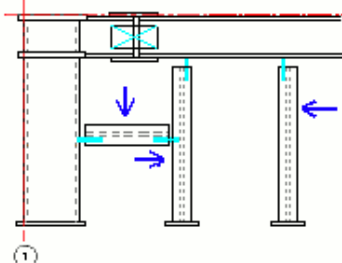
部材納め表示

項目名称	設定値
4 縮尺	
5 カラー出力	1 - なし
6 作図間隔1 (mm)	
7 作図間隔2 (mm)	
8 階高名称線	1 - 寸法線まで
9 階高名称位置	1 - 外側
10 キープラン納め表示	2 - あり
11 部材表示制限(手前) (mm)	
12 部材表示制限(奥側) (mm)	
13 部材表示制限(左側) (mm)	
14 部材表示制限(右側) (mm)	
15 部材表示制限	2 - 立面入力以外対象
16 部材表示切り替え角度	
17 通しダイヤ表示	2 - 板厚表示
18 内ダイヤ表示	3 - 板厚表示
19 部材板厚表示	2 - あり
20 柱センターライン	1 - なし
21 梁センターライン	1 - なし
22 梁追加表示	2 - あり
23 部材納め表示	2 - あり
24 梁上下表示	1 - なし
25 梁上下表示	2 - 逆のみ
26 梁上下表示	3 - 入力全部

2.逆のみ



3.入力全部



『2-逆のみ』

標準の納めとは逆にした場合にのみ納めの矢印を表示します。

『3-入力全部』

軸で納め方向を表示できるすべての部材に納め方向の矢印を表示します。

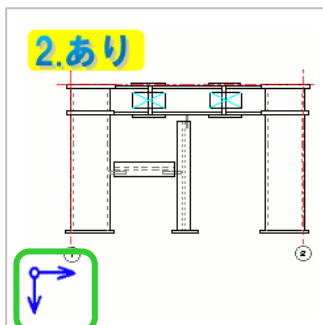


軸組図の左下に矢印を表示したい場合もパラメーターでの設定が必要です。

【ファイル】 - 【パラメーター】 - 図面作成 -

6) 軸組図の10) キープラン納め表示 を

『2-あり』にします。



図面作成

データ作成

二次部材作成

データ連動

用紙設定

部材納め表示

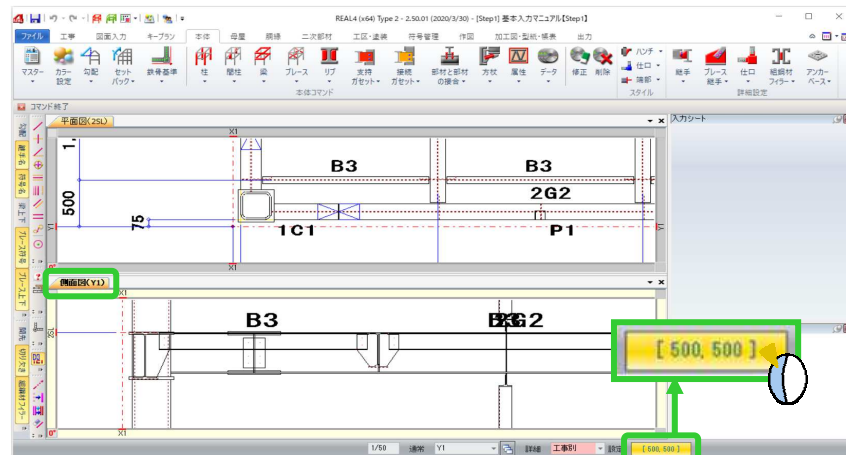
項目名称	設定値
1 ファイル名	一般図
2 ファイル名	軸
3 ファイル名作成コード	#2
4 縮尺	
5 カラー出力	1 - なし
6 作図間隔1 (mm)	
7 作図間隔2 (mm)	
8 階高名称線	1 - 寸法線まで
9 階高名称位置	1 - 外側
10 キープラン納め表示	2 - あり
11 部材表示制限(手前) (mm)	
12 部材表示制限(奥側) (mm)	
13 部材表示制限(左側) (mm)	
14 部材表示制限(右側) (mm)	
15 部材表示制限	2 - 立面入力以外対象
16 部材表示切り替え角度	
17 通しダイヤ表示	2 - 板厚表示
18 内ダイヤ表示	3 - 板厚表示
19 部材板厚表示	2 - あり
20 柱センターライン	1 - なし



配置画面で側面図ごとに部材の表示範囲を変更したい！

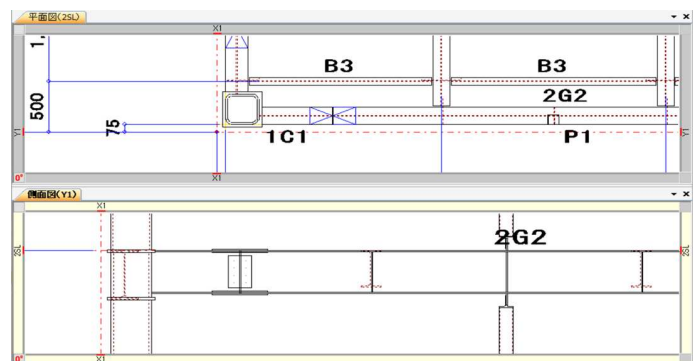
個別に部材表示制限の変更が可能です。

例) 小梁が大梁と重なって表示されるので表示範囲を変更して非表示にしたい場合
表示範囲を変更したい側面図を開き、右下にある **部材表示制限** をクリックします



部材表示制限の設定画面が開きます。

『パラメーター参照』のチェックを外し、表示を変更したい奥側（手前）に数値を入力し **OK** をクリックします。
今回は部材表示制限（奥側）を 500→300 に変更します。



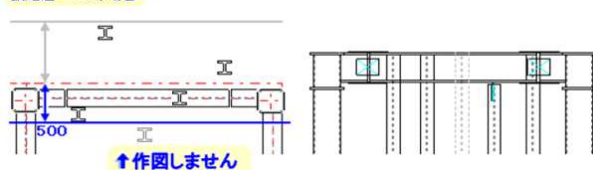
全ての側面図の表示範囲を変更する場合は、【パラメーター】 - 【図面作成】 - 6.軸組図 - 11) 部材表示制限（手前）、12) 部材表示制限（奥側）で変更します。

それぞれ通りから指定値以内を表示します。（※パラメーターを変更すると軸組図作成時にも反映されます。）

図面作成	項目名称	設定値
5 梁伏図	11 部材表示制限(手前)<mm>	500
6 軸組図	12 部材表示制限(奥側)<mm>	500
7 継手基準図		
8 詳細図		

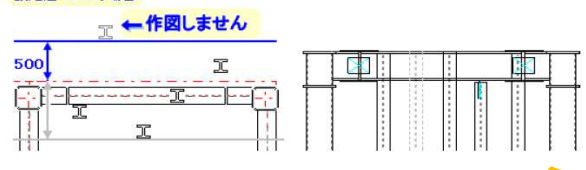
11) 部材表示制限（手前）（キープランより前側）

設定値=500の場合



12) 部材表示制限（奥側）（キープランより後ろ側）

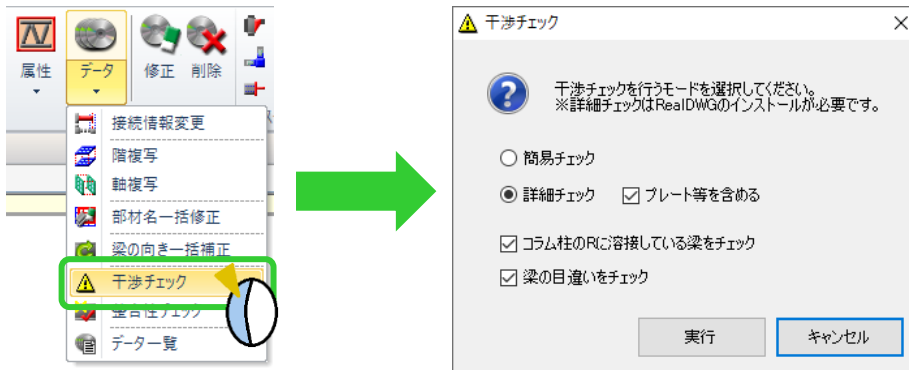
設定値=500の場合



部材や板が干渉していないか確認したい！ 干渉チェックで確認ができます。

【データ】 - 【干渉チェック】をクリックし、干渉チェックを行うモードを選択します。

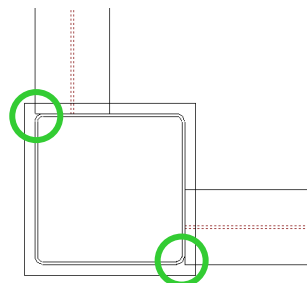
簡易チェックは鋼材を直方体として認識する簡易的なチェック、詳細チェックは実際の形状で認識し、『プレート等を含める』にチェックを付けると継手などのプレートの干渉チェックも含めて行います。今回は、詳細チェックを選択し、『プレート等を含める』にチェックを付けて**実行**をクリックします。



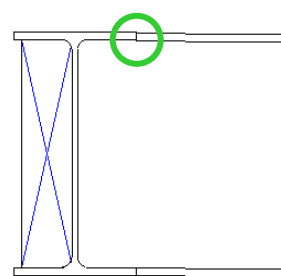
『コラム柱のRに溶接している梁をチェック』にチェックを付けると、コラム柱に溶接する梁がコラムのR部分に溶接していないかチェックします。

『梁の目違いをチェック』にチェックを付けると、梁が目違いをしていないかをチェックします。

コラム柱のRに
溶接している梁を
チェック



梁の目違いを
チェック



干渉チェックの結果を表示します。干渉している部材の接続や位置を確認します。

『選択と同時に強調表示』にチェックを付けると、選択した内容を強調表示します。

